

# 平成28年度 第2回 朝日地域振興懇談会

## 次 第

日 時 平成29年2月23日（木）

午前9時30分開会

場 所 朝日中央コミュニティーセンター 多目的研修室

### 1. 開 会

### 2. あいさつ

### 3. 協 議

(1) 朝日地域振興計画の取り組み状況について 資料1 資料2

(2) その他

### 4. 報 告

(1) 公共交通対策 資料3

(2) 小さな拠点づくり推進事業 資料4

### 5. そ の 他

### 6. 閉 会

## 朝日地域振興懇談会委員名簿

任期：平成27年6月1日～平成29年3月31日

	所 属 団 体 等	役職名等	氏 名	備考
1	朝日地域自治会連絡協議会	会 長	平 形 恭 順	任期 28.4.20～
2	出羽商工会	副 会 長	松 本 壽 太	
3	出羽庄内森林組合	前 理 事	伊 藤 文 一	
4	あさひむら直売施設管理運営組合	支 配 人	佐 藤 照 子	
5	鶴岡市消防団朝日方面隊	方 面 隊 長	五 十 嵐 英 紀	
6	あさひ婦人の会	会 長	帯 刀 とく子	
7	鶴岡市朝日地区民生児童委員協議会	会 長	佐 藤 宥 男	
8	朝日芸術文化協会	会 長	渡 部 嚴	
9	朝日中学校PTA	会 長	伊 藤 弘 光	
10	旧朝日村議会	元 副 議 長	井 上 時 夫	
11	大鳥地域づくり協議会	会 長	工 藤 悦 夫	
12	あさひスポーツクラブ	指 導 員	渡 部 小 枝	
13	朝日南部コミュニティセンター	事 務 局 長	山 口 弘 美	
14	自営業 ((工房) Umu ネット月山)	代 表	渡 部 順 子	

### 【市関係者】

所 属	職 名	氏 名	備 考
朝日庁舎	支所長	佐 藤 利 浩	
朝日庁舎総務企画課	課長	工 藤 幸 雄	
朝日庁舎市民福祉課	課長	佐 藤 美 鈴	
朝日庁舎産業課	課長	土 田 浩 和	
建設部南部建設事務室	室長	上 野 衛	
企画部地域振興課	地域振興専門員	本 間 育 子	
朝日庁舎総務企画課	総務地域振興専門員	吉 野 崇 子	
朝日庁舎総務企画課	専門員	小 野 寺 善 紀	

# 朝日地域振興計画 取組み状況

平成29年2月

鶴岡市朝日庁舎

## < 目 次 >

### 基本方針（１）「山の恵みを活かした複合農業の推進」

1. 山ぶどう加工品開発の推進 ————— 1
2. “山の恵み”産地化の推進 ————— 4
3. 地域特性を生かした再生可能エネルギー活用 ————— 7

### 基本方針（２）「山村生活文化の継承による地域づくり」

1. 六十里越街道“癒しと再生の道”づくり ————— 10
2. 自然体験学習活動の推進 ————— 13
3. 観光資源の再生と人材活用 ————— 17
4. 移住・定住の促進 ————— 20

※取組み調書の「6 達成度」は次の4段階で評価した。

- 1 当初予定した事業に全て取り組み、具体的な成果が表れている（達成）
- 2 当初予定した事業の大部分に組み、一定の成果が表れている（ほぼ達成）
- 3 当初予定した事業に大部分に組みしたが、成果がでていない（未達成）
- 4 当初予定した事業に組みせず、相当の課題が残っている（未実施）

**朝日地域振興計画 取組み状況調書 (1)-1-①**

<b>1 施策の基本方針</b>	(1) 山の恵みを生かした複合農業の推進																								
<b>2 具体的な展開方策</b>	1. 山ぶどう加工品開発の推進 ①月山ワインの新商品開発の推進																								
<b>3 事業の概要</b>	<p>月山ワインは、山ぶどうを原料としたワインを中心に販路の積極的な拡大を図ってきたが、他品種の原料を用いた新しいワインづくりを展開する必要がある。</p> <p>このため、新商品開発に向けて必要となる製造施設としての充填ラインの整備やワインタンクの更新等によるワインの新商品開発を支援する。</p>																								
<b>4 これまでの取組み内容</b>	<p><b>H26～H28</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・醸造用ブドウの苗木助成事業 (1/3 補助) 新しいワインづくりを支援 (市全体) H26 140 千円、H27 87 千円、H28 329 千円</li> <li>・月山ワイン施設整備計画策定 H26 月山ワイン施設整備 H27、H28</li> <li>・山ブドウ研究所の施設改修・設備整備 (充填ライン、ステンレスタンク) H27</li> <li>・月山ワイン文化の会 (月山ワイン商品説明会) への助成 H26</li> <li>・月山ワインまつりへの助成 H26 430 千円、H27 420 千円、H28 400 千円</li> </ul>																								
<b>5 これまでの取組みにおける事業の実績と課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新品種の醸造用ぶどう苗木に補助を行いながら、積極的に新商品開発に取り組み、平成 28 年に仕込みを行っている。</li> <li>・充填ラインの整備を行い、スパークリングワインの充填もできるようになった。</li> <li>・施設内の改修を行い、充填用ステンレスタンクを整備し小分けできるようにした。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="255 1321 1348 1523"> <thead> <tr> <th></th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>月山ワイン (ℓ)</td> <td>85,327</td> <td>84,491</td> <td>86,907</td> <td>87,837</td> <td>87,124</td> </tr> <tr> <td>ぶどう果汁 (ℓ)</td> <td>31,097</td> <td>16,652</td> <td>18,656</td> <td>12,683</td> <td>14,377</td> </tr> <tr> <td>山ぶどう原液 (ℓ)</td> <td>29,899</td> <td>27,472</td> <td>24,589</td> <td>19,076</td> <td>20,572</td> </tr> </tbody> </table> <p>II28 新設 充填用ステンレスタンク 3.8kl 4 基 4.0kl 4 基 移動用ステンレスタンク 1.0kl 2 基 2.0kl 4 基</p>		H23	H24	H25	H26	H27	月山ワイン (ℓ)	85,327	84,491	86,907	87,837	87,124	ぶどう果汁 (ℓ)	31,097	16,652	18,656	12,683	14,377	山ぶどう原液 (ℓ)	29,899	27,472	24,589	19,076	20,572
	H23	H24	H25	H26	H27																				
月山ワイン (ℓ)	85,327	84,491	86,907	87,837	87,124																				
ぶどう果汁 (ℓ)	31,097	16,652	18,656	12,683	14,377																				
山ぶどう原液 (ℓ)	29,899	27,472	24,589	19,076	20,572																				
<b>6 達成度</b>	1 当初予定した事業に全て取り組み、具体的な成果が表れている (達成)																								
<b>7 今後の事業の進め方</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新商品開発と消費拡大に向けた取り組みにより、地域農業の活性化を推進する。</li> </ul>																								

## 朝日地域振興計画 取組み状況調書 (1)-1-②

<b>1 施策の基本方針</b>	(1) 山の恵みを生かした複合農業の推進
<b>2 具体的な展開方策</b>	1. 山ぶどう加工品開発の推進 ②山ぶどうの新規加工品開発の推進
<b>3 事業の概要</b>	山ぶどうの持つ健康食品としての効能を活用し、多様な商品化に向けた研究開発を支援することで、販売促進を進めながら山ぶどう関連商品の消費拡大を図る。
<b>4 これまでの取組み内容 H26～H28</b>	
・産直あさひ・グーでは、あさひ村特産品開発協議会の助成により、山ぶどう原液を活用したロールケーキの商品化を行った。H26	
<b>5 これまでの取組みにおける事業の実績と課題</b>	
山ぶどう原液を活用した山ぶどうシャーベット、月山やまぶどうロール等が商品化されている。定期的に新商品を開発することが大切なため見直しが必要となっている。個人や団体等での商品開発は、山ぶどうジャム等の商品化が進められている。	
<b>6 達成度</b>	3 当初予定した事業に大部分に取り組んだが、成果が出ていない（未達成）
<b>7 今後の事業の進め方</b>	
山ぶどうを使った加工商品開発を行う個人や団体に対して支援方法の検討。既存支援の活用。	

## 朝日地域振興計画 取組み状況調書 (1)-1-③

<b>1 施策の基本方針</b>	(1) 山の恵みを生かした複合農業の推進
<b>2 具体的な展開方策</b>	1. 山ぶどう加工品開発の推進 ③栽培農家の減少対策及び後継者育成
<b>3 事業の概要</b>	近年の山ぶどうの生産調整や価格の引き下げは、栽培農家のみならず地域農業に大きなダメージを与え、農業従事者の高齢化の影響もあいまって栽培農家は急激に減少している。 山ぶどうの安定した収穫量を確保するためには、生産農家の後継者育成が急務であり、若い世代にとって魅力ある経営環境を整えるような取り組みを展開する。
<b>4 これまでの取り組み内容</b>	<b>H26～H28</b> ・醸造用ブドウの苗木助成事業 (1/3 補助) 新しいワインづくりを支援 (市全体) H26 140 千円、H27 87 千円、H28 329 千円 ・高齢化により山ぶどう栽培をやめた園地を、試験的に J A が栽培管理をして新しい栽培農家に貸し出しを行う。H26、H27
<b>5 これまでの取組みにおける事業の実績と課題</b>	・安定した生産量を確保するために、ブドウの苗木助成を行ったが、平成 28 年度で一旦終了となる。 ・山ぶどうの生産振興が、農業者の所得向上に結び付くような形で支援する必要がある。 ・山ぶどう栽培の生産者の拡大は行っておらず、また手間もかかるため、高齢化が進むにつれ減少している。山ぶどうだけでなく新品種用苗木についても推進し、所得向上に結び付け、魅力ある農業振興につなげていく。
<b>6 達成度</b>	3 当初予定した事業に大部分に取り組んだが、成果が出ていない (未達成)
<b>7 今後の事業の進め方</b>	・高齢化により山ぶどう栽培をやめていく園地の、後継となる生産者が見つかるまでの維持管理について、J A と一体となって取り組んでいく。

## 朝日地域振興計画 取組み状況調書 (1)-2-①

<b>1 施策の基本方針</b>	(1) 山の恵みを活かした複合農業の推進
<b>2 具体的な展開方策</b>	2. “山の恵み”産地化の推進 ①山の恵みのブラッシュアップと情報発信
<b>3 事業の概要</b>	朝日地域にある山菜を始めとする豊富な山の幸の魅力を発信し、潜在的な素材の魅力を引き出すとともに、特産品のブランド力を高めイメージ情報戦略を積極的に展開する。
<b>4 これまでの取組み内容</b>	H26～H28
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中山間地域農産物販売促進事業（農政課所管）を活用したリーフレット作成 H26</li> <li>・フェイスブックを活用しての情報発信</li> <li>・首都圏での物産に参加し、生産者と供に対面販売によるPR                神楽坂毘沙門天前での物販（4回・産直あさひ・グー）                すみだまつり（朝日すみだ会）                江戸川区民まつり（朝日庁舎）                新宿西口広場（SPD）                鶴岡寒だらまつり東京会場（産直あさひ・グー）                わんぱく雪まつり（朝日すみだ会）                おいしい山形プラザ（SPD）</li> </ul>
<b>5 これまでの取組みにおける事業の実績と課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PR用リーフレット 物販等の機会を捉えながら配布しているが、思うように活用されていない状況にある。</li> <li>・フェイスブック アップ回数が少ないため、認知されていないようである。担当者の個人スキルに頼る形の情報発信は、継続性に問題がある。</li> </ul>
<b>6 達成度</b>	3当初予定した事業の大部分に取り組んだが、成果が出ていない（未達成）
<b>7 今後の事業の進め方</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管内事業所にPRリーフレットの配布を行い、活用を依頼する。</li> <li>・地域内の事業所で、地方発送する特産品にリーフレットを同封してもらうなどの取組を行う。</li> <li>・情報発信のツールを検討する。</li> </ul>



## 朝日地域振興計画 取組み状況調書 (1)-2-②

<b>1 施策の基本方針</b>	(1) 山の恵みを活かした複合農業の推進
<b>2 具体的な展開方策</b>	2. “山の恵み” 産地化の推進 ②市場動向の把握と販売戦略の構築
<b>3 事業の概要</b>	安全・安心な食材を生産し、生産者の顔が見える産直を通して、消費者と生産者を繋ぐとともに、産直機能を向上させ、生産者自身がマーケティングを通して市場に直結する販路を確立することができるような仕組みをつくる。
<b>4 これまでの取組み内容 H26～H28</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・森の産直カーによる市街地への販売事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>H26 運行日程：4月～12月 売上：305万円</li> <li>H27 運行日程：5月～3月 売上：279万円</li> <li>H28 運行日程：5月～3月 売上：239万円（10月末現在）</li> </ul> </li> <li>・市街地スーパーへのインショップ展開 <ul style="list-style-type: none"> <li>H26 売上：551万円</li> <li>H27 売上：973万円</li> <li>H28 売上：495万円（10月末現在）</li> </ul> </li> <li>・農産物の集荷・出荷事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>H27 地域人づくり事業＜県補助＞</li> <li>H28 鶴岡市中山間地域活性化事業補助金</li> </ul> </li> </ul>	
<b>5 これまでの取組みにおける事業の実績と課題</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴岡市街地において朝日産の農産物をPRするため、産直カーを活用した移動販売と、スーパーへのインショップを行った。朝日産という安心感、朝日までいかないと手に入らなかったものが、日常利用しているスーパーで手に入るという気軽さから、販売額を伸ばしている。</li> <li>・平成28年度はインショップの売り上げが落ちている状況にあるが、過去2年間の物珍しさから、いつでも手に入るという消費者の思考の変化によるものと思われる。</li> <li>・産直カー事業は、立ち寄り箇所を増やすことで売上が上がる。立ち寄り箇所を増やすと、最終箇所では商品不足になる事、商品補充のため、店舗にひき返す事による販売員の疲労などの課題がある。</li> </ul>	
<b>6 達成度</b>	2当初予定した事業の大部分に取り組み、一定の成果が表れている（ほぼ達成）
<b>7 今後の事業の進め方</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・産直カーによる集荷事業、移動販売事業は、消費者・生産者のニーズに合っていることから、より良い事業となるよう改善できると思われる。</li> <li>・産直カー運行を2名体制として、午前の部、午後の部で、人員及び商品の入れ替えを行う。</li> <li>・個々の生産者が自身でマーケティングを行い、市場を開拓して行くことは容易ではないが、若者世代を中心に、ファーマーズマーケット等を活用し自分の力で販路を開こうとする姿勢が見受けられる。今後、このような生産者に対する支援も検討していく。</li> </ul>	

## 朝日地域振興計画 取組み状況調書 (1)-2-③

<b>1 施策の基本方針</b>	(1) 山の恵みを活かした複合農業の推進																								
<b>2 具体的な展開方策</b>	2. “山の恵み” 産地化の推進 ③新規部門の調査研究と商品開発																								
<b>3 事業の概要</b>	潜在的農産物を活用し、地域の特産品を使った新商品の研究開発を行い、「地産外消」を目指した商品開発を進める。																								
<b>4 これまでの取組み内容 H26～H28</b>																									
<p>産直あさひ・グーにおける商品開発</p> <p>◇「月山やまぶどうロール」(あさひむら特産品開発協議会の支援による) 朝日地域の特産品である、山ぶどうの原液・クルミを使ったロールケーキを開発販売。</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>【売上】</td> <td>H27</td> <td>月山山ぶどうロール (～27)</td> <td>1,800 本</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H28</td> <td>月山山ぶどうロール (レギュラー)</td> <td>230 本</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(ハーフ)</td> <td>136 本</td> </tr> </table> <p>◇「とちの実ロール」(あさひむら特産品開発協議会の支援による) 月山やまぶどうロールの姉妹品として開発販売。 シリーズ化を図ったことで相乗効果もあり、前年同様の成果を上げることができた。</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>【売上】</td> <td>H27</td> <td>とちの実ロール</td> <td>35 本</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H28</td> <td>とちの実ロール (レギュラー)</td> <td>200 本</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(ハーフ)</td> <td>420 本</td> </tr> </table> <p>◇「炊き込みごはんのもと」</p> <p>H27 朝日の食材を詰め込んだ商品の開発に取り組み、試験販売と求評を行った。 H28 ブラッシュアップするとともに、PRに力を入れて販売を行っている。</p>		【売上】	H27	月山山ぶどうロール (～27)	1,800 本		H28	月山山ぶどうロール (レギュラー)	230 本			(ハーフ)	136 本	【売上】	H27	とちの実ロール	35 本		H28	とちの実ロール (レギュラー)	200 本			(ハーフ)	420 本
【売上】	H27	月山山ぶどうロール (～27)	1,800 本																						
	H28	月山山ぶどうロール (レギュラー)	230 本																						
		(ハーフ)	136 本																						
【売上】	H27	とちの実ロール	35 本																						
	H28	とちの実ロール (レギュラー)	200 本																						
		(ハーフ)	420 本																						
<b>5 これまでの取組みにおける事業の実績と課題</b>																									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝日らしい素材(食材)を活用しての商品開発を行い、商品化も進んでいる。</li> <li>・他の潜在的農産物についても、商品化のための試行錯誤を行うことが必要である。</li> <li>・個人で加工施設を整備し、特産品を活用した商品開発や、自身の圃場を活用し、体験希望者を受け入れる事業に取り組むなど、次のステップへと進む生産者も出てきている。</li> </ul>																									
<b>6 達成度</b>	2 当初予定した事業の大部分に取り組み、一定の成果が表れている(ほぼ達成)																								
<b>7 今後の事業の進め方</b>																									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一過性のものにならないため、定期的に販売にまで結びつけることができる商品開発の継続が必要であり、現在販売を行っている商品についても、ブラッシュアップを行い、消費者が手に取る商品づくりを心がける。</li> <li>・商品の元になる素材の生産、流通に対する支援を行っていく。</li> </ul>																									

## 朝日地域振興計画 取組み状況調書 (1)-3-①

<b>1 施策の基本方針</b>	(1) 山の恵みを生かした複合農業の推進
<b>2 具体的な展開方策</b>	3. 地域特性を生かした再生可能エネルギー活用 ①雪氷熱の活用研究
<b>3 事業の概要</b>	朝日地域の資源である豊富な降雪、水資源、木材などをエネルギー源とする新エネルギーの導入実験に取り組み、特産物の付加価値向上などに取り組む。
<b>4 これまでの取り組み内容 H26～H28</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・雪室「あさひの雪蔵」では、雪を活用した農産物の低温貯蔵による出荷調整の実施。 (促成山菜、花の根)</li> <li>・付加価値をつけ有利販売につなげる調査の実施。 (雪室米、くり、くだもの)</li> </ul>	
<b>5 これまでの取組みにおける事業の実績と課題</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・行者にんにく、青ごごみの株を冷凍保管し、ハウスを利用して促成栽培し、有利販売につなげている。</li> <li>・玄米の雪室貯蔵したブランド米としての可能性調査の実施を行った。雪室内の湿度が高いため、湿度対策が必要となるが、ブランド米となる可能性はある。貯蔵できる量が限られるため、販売メリットが少ない。</li> <li>・栗、果物については、短期間貯蔵の出荷調整調査を実施。</li> <li>・雪室内の湿度対策については、短期間であれば特に問題はないが、ある一定期間を過ぎると腐ったり軟化したりと、問題が出てくるため、条件整理に期間が必要となっている。</li> </ul>	
<b>6 達成度</b>	4 当初予定した事業に取り組みず、相当の課題が残っている (未実施)
<b>7 今後の事業の進め方</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・産直を活用した少量・多品目での出荷調整を検討し、有利販売に繋げる調査を進める。</li> </ul>	

## 朝日地域振興計画 取組み状況調書 (1)-3-②

<b>1 施策の基本方針</b>	(1) 山の恵みを活かした複合農業の推進
<b>2 具体的な展開方策</b>	3. 地域特性を生かした再生可能エネルギー活用 ②小規模水力発電の推進
<b>3 事業の概要</b>	水力発電は既に成熟した技術が確立されているため、中小河川や農業用水路などの流れを利用した小規模水力発電の導入は比較的容易であることから、発電した電力を隣接するビニールハウスの暖房に利用するなど、農業生産のコスト縮減に向けた取り組みを展開します。
<b>4 これまでの取り組み内容</b>	H26～H28
	取り組んだ事業はなし
<b>5 これまでの取組みにおける事業の実績と課題</b>	
	6年目に入った大鳥池小屋の発電は、朝日連峰内の山小屋として重要な設備となっている。実験事業にとどまらず具体的なプロジェクトとして展開することができなかった。
<b>6 達成度</b>	4 当初予定した事業に取り組まず、相当の課題が残っている（未実施）
<b>7 今後の事業の進め方</b>	
	水資源が豊富な朝日地域では、取り組みとして多くの可能性があるが、用水路発電では水利権の問題（理解を含む）、発電に必要な流速・水量、場所の確保、発電機械の維持管理、電力を何に活用するのかといった課題がある。農業に活用する場合は、栽培する作物の選定やハウス等の設備、さらには意欲ある農家の育成などが課題である。

**朝日地域振興計画 取組み状況調書 (1)-3-③**

<b>1 施策の基本方針</b>	(1) 山の恵みを活かした複合農業の推進
<b>2 具体的な展開方策</b>	3. 地域特性を生かした再生可能エネルギー活用 ③バイオマス発電の推進と原料の安定供給対策
<b>3 事業の概要</b>	<p>楡引地域のバイオマス発電施設の原料を安定供給するために、効果的な森林施業を可能にする林道の整備や、林業事業者の機械化・省力化策を支援していく。併せて、バイオマスエネルギーの利用拡大をめざし、ペレットストーブや薪ストーブの普及に向けた取り組みを展開する。</p>
<b>4 これまでの取組み内容 H26～H28</b>	
<p>・暖房にペレットを活用 朝日保育園、朝日中学校</p> <p>・木質バイオマス発電所 平成27年秋 楡引地域に完成</p> <p>H27 朝日地区の市有林の間伐(4.1ha)を実施し、未利用のCD材を供給しているほか、民有林の間伐(25ha)も実施され、間伐材を供給し、合計454 m<sup>3</sup>が活用されている。</p> <p>H28 民有林の間伐(21ha)が実施され、間伐材1,055 m<sup>3</sup>を供給している。</p>	
<b>5 これまでの取組みにおける事業の実績と課題</b>	
<p>朝日地区内の公共施設(保育園・中学校)の改築で朝日産木材の活用と合わせ、ペレットを利用する暖房等の設備を設置し普及を図った。</p> <p>また、間伐促進によるバイオマス発電所への間伐材を供給している。</p>	
<b>6 達成度</b>	3 当初予定した事業に大部分に取り組んだが、成果が出ていない(未達成)
<b>7 今後の事業の進め方</b>	
<p>朝日地区で植林されたスギ等は、間伐実施する適期になっているものが多く、民有林の間伐の促進と市有林の森林整備計画の着実な実施による育成が重要である。また、未利用の間伐材の供給には搬出量の確保が必要であり、間伐作業の効率化のため林道の整備や作業道の開設などが重要である。</p> <p>県内では、大規模な木質バイオマス発電所の開設が進行している。これに合わせ、大量の間伐材等の供給や、山林の伐採(皆伐)による伐採後の植林等が進まず山林が荒廃することも懸念される。</p>	

## 朝日地域振興計画 取組み状況調書 (2)-1-①

<b>1 施策の基本方針</b>	(2) 山村生活文化の継承による地域づくり										
<b>2 具体的な展開方策</b>	1. 六十里越街道“癒やしと再生の道”づくり ①森林セラピー基地・セラピーロード設定に向けた取り組み										
<b>3 事業の概要</b>	セラピー効果を高める森林ガイド付き森林浴や関連施設等の整備と併せ、多様な森林浴が可能となるように市内の森と連携を強化し、健康増進やリラックスを目的としたセラピートレッキングプログラムの開発や森林セラピー基地・セラピーロードとしての認定を目指す。										
<b>4 これまでの取り組み内容 H26～H28</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・街道巡回及び管理業務</li> <li>・標識杭・標柱・案内板・石階段等整備、山岳トイレ整備</li> <li>・トレッキングイベントの実施</li> <li>・PR活動、団体育成等</li> </ul>											
<b>5 これまでの取組みにおける事業の実績と課題</b>											
<p>六十里越街道の保全整備については、出羽商工会やアルゴディア研究会など、民間の力が大きな役割を果たしている。しかしながら、森林セラピーに対する認識不足やトレッキング自体がセラピー、ウェルネスとも言えることから、プラスαの効果に対するニーズがあまりなかった。また近年情勢が変わりつつあり、取り組みに対して、需要が少ないことや方向性が変わりつつある。</p> <p>※六十里越街道入込者数</p> <table border="1" style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">年度</th> <th style="width: 85%;">人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27</td> <td>5,500</td> </tr> <tr> <td>26</td> <td>5,200</td> </tr> <tr> <td>25</td> <td>4,812</td> </tr> <tr> <td>24</td> <td>4,758</td> </tr> </tbody> </table>		年度	人数	27	5,500	26	5,200	25	4,812	24	4,758
年度	人数										
27	5,500										
26	5,200										
25	4,812										
24	4,758										
<b>6 達成度</b>	4 当初予定した事業に取り組みず、相当の課題が残っている（未実施）										
<b>7 今後の事業の進め方</b>											
近年はパワースポットとして注目を集めていることから、パワースポットの存在を前面に出した形での取り組みについても検討していきたい。											

## 朝日地域振興計画 取組み状況調書 (2)-1-②

<b>1 施策の基本方針</b>	(2) 山村生活文化の継承による地域づくり
<b>2 具体的な展開方策</b>	1. 六十里越街道“癒やしと再生の道”づくり ②マーケットの拡大
<b>3 事業の概要</b>	六十里越街道は、世界遺産に登録された熊野古道と比較した場合、知名度が低く単独では集客力が弱いことから、面的な展開が必要になっている。市内の月山ビジターセンターや高館山散策道、下池湖畔道等と連携することで集客力を高め、積極的にマーケットを拡大する方策を展開する。
<b>4 これまでの取組み内容</b>	<b>H26～H28</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・街道巡回及び管理業務</li> <li>・標識杭・標柱・案内板・石階段等整備、山岳トイレ整備</li> <li>・トレッキングイベントの実施</li> <li>・PR活動、団体育成等</li> </ul>
<b>5 これまでの取組みにおける事業の実績と課題</b>	<p>六十里越街道の保全・整備については、出羽商工会、アルゴディア研究会など、民間の力が大きな役割を果たしている。ソフト面でも山船頭人協会によるツアーガイドやNPO 法人森と水によるイベントが実施されるなど、地域事業者、ツアー事業者等がトレッキングイベントを企画するなど、良好な運営がなされている。</p> <p>集客力のあるトレッキングツアーの企画開発や個人での古道歩きによる二次交通の課題について取り組んでいく必要がある。</p>
<b>6 達成度</b>	3 当初予定した事業に大部分に取り組んだが、成果が出ていない（未達成）
<b>7 今後の事業の進め方</b>	多方面の団体でトレッキングイベントを企画するなど、良好な運営がなされているが、参加者の高齢化が進んでいる現状にある。年代をターゲットにした企画と並行して、若年層にも興味を持ってもらい参加につながるようなイベントやツアーを企画し、SNS 等の発信により観光地としての認知度を高めていきたい。

## 朝日地域振興計画 取組み状況調書 (2)-1-③

<b>1 施策の基本方針</b>	(2) 山村生活文化の継承による地域づくり
<b>2 具体的な展開方策</b>	1. 六十里越街道“癒やしと再生の道”づくり ③トレイルランニングなどの新たな取り組み
<b>3 事業の概要</b>	トレイルランニングは近年のランニングブームやトレッキングブームもあり急速に愛好者が増えているが、六十里越街道から月山山頂を経由する登山道はトレイルランニングコースとしてその魅力を十分に秘めていることから、大会の誘致などに取り組み、六十里越街道に新たな客層を取り込んでいきます。
<b>4 これまでの取り組み内容 H26～H28</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・街道巡回及び管理業務</li> <li>・標識杭・標柱・案内板・石階段等整備、山岳トイレ整備</li> <li>・トレッキングイベントの実施</li> <li>・PR活動、団体育成等</li> </ul>	
<b>5 これまでの取組みにおける事業の実績と課題</b>	
<p>六十里越街道の保全や整備については、出羽商工会、アルゴディア研究会など民間の力が大きな役割を果たしている。また、急速に人気を博しているトレイルランニングイベントの可能性については、歴史街道としての兼ね合いも含め慎重に調整を進めていく。</p> <p>トレイルランニングイベントの開催については、コースの選定や大会の可能性について模索しているが、運営体制の構築に苦慮している。</p>	
<b>6 達成度</b>	4 当初予定した事業に取り組みず、相当の課題が残っている（未実施）
<b>7 今後の事業の進め方</b>	
<p>近年の登山ブームに合わせてトレイルランニングに対する認知度もあがっていることから、多くの参加者を見込めると考えてはいるが、近年の情勢や需要の観点も含めて検討していく。</p>	



## 朝日地域振興計画 取組み状況調書 (2)-2-①

<b>1 施策の基本方針</b>	(2) 山村生活文化の継承による地域づくり												
<b>2 具体的な展開方策</b>	2. 自然体験学習活動の推進 ①自然の恵みを活用したプログラム整備												
<b>3 事業の概要</b>	大鳥自然の家や冬の雪山などで多くの人に親しまれている自然の恵みを活用した体験プログラムの魅力を生かすとともに、十分に魅力が伝わっていない自然体験活動を掘り起し、幅広い年齢層に親しまれるプログラムを体系的に整備する。												
<b>4 これまでの取り組み内容 H26～H28</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大鳥自然の家に指定管理者制度導入 H26</li> <li>・ちびっこ木の実園の整備（アケビ、栗林等） H26～27     栗拾い体験プログラム利用 H27 2件</li> <li>・自然体験プログラムの利用 H26 141件、H27 127件</li> <li>・水生生物飼育池の整備と水生生物（メダカ等）の飼育 H27</li> <li>・食の活動プログラムの新設 H28 ピザ釜の作成</li> <li>・世代間交流事業 H28 雪遊び（かんじき、そり制作、そりすべり）</li> <li>・先進地視察研修の実施 H28 金峰少年自然の家・遊学の森</li> </ul> <p style="text-align: center;">[大鳥自然の家 利用者数の推移]</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">年度</th> <th style="text-align: center;">23</th> <th style="text-align: center;">24</th> <th style="text-align: center;">25</th> <th style="text-align: center;">26</th> <th style="text-align: center;">27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">利用者数(人)</td> <td style="text-align: center;">4,234</td> <td style="text-align: center;">5,207</td> <td style="text-align: center;">4,108</td> <td style="text-align: center;">3,616</td> <td style="text-align: center;">3,369</td> </tr> </tbody> </table>	年度	23	24	25	26	27	利用者数(人)	4,234	5,207	4,108	3,616	3,369
年度	23	24	25	26	27								
利用者数(人)	4,234	5,207	4,108	3,616	3,369								
<b>5 これまでの取組みにおける事業の実績と課題</b>	<p>○大鳥自然の家自然体験プログラム 利用は多いが、青少年対象施設であることから、少子化が影響し利用数が減少傾向にあるため、利用促進に向けた取り組みが必要である。 プログラムの掘り起しについては、スタッフの努力により、少しずつではあるが、新規プログラムとして提供できるようになってきた。平成29年度は、食に関する自然体験プログラムを提供する予定である。今年度から、雪に関するプログラムを掘り起し、かんじきウォークやそりすべり等を実施している。</p> <p>○ちびっこ木の実園 植栽や環境整備を積極的に行っているが、自然体験プログラムにうまく活用が図られていない。今後、実施する食の活動プログラムと「ちびっこ木の実園」での収穫体験などを組み合わせることにより、自然体験プログラムとして体系的に整備していく。</p>												
<b>6 達成度</b>	2当初予定した事業の大部分に取り組み、一定の成果が表れている（ほぼ達成）												
<b>7 今後の事業の進め方</b>	<p>大鳥自然の家での自然体験プログラムについては、新しいプログラムを体系的に整備しながら、施設の利用促進につなげる。食の体験プログラムと組み合わせ、 「ちびっこ木の実園」の有効活用を図っていく。</p> <p>雪に関するプログラムを今後継続して実施できるように、実施団体の支援や技能をもった人材育成を行っていく。</p>												

**朝日地域振興計画 取組み状況調書 (2)-2-②**

1 施策の基本方針	(2) 山村生活文化の継承による地域づくり
2 具体的な展開方策	2. 自然体験学習活動の推進 ②大鳥山系を活用したトレッキング・プログラムの整備
3 事業の概要	朝日スーパーラインの通行可能期間の拡大を図ることで沿線での事業展開につなげるとともに、大鳥池・以東岳については、登山に加えてより多くの人に訪れてもらえるようにトレッキングコースとして位置づける整備手法について検討する。
<b>4 これまでの取組み内容 H26～H28</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・登山道等維持管理の担い手の育成     山岳資源魅力向上サポーター育成事業の実施      H26・H27</li> <li>・大鳥池・以東岳避難小屋管理業務</li> <li>・登山道維持管理・刈払補修整備業務</li> </ul>	
<b>5 これまでの取組みにおける事業の実績と課題</b>	
<p>「山岳資源魅力向上サポーター育成事業」では、参加者が指導者から草木の刈払・倒木等伐採除去作業を教わり、安全に作業を実施することができ、山の魅力や登山道の維持管理の重要性を学んだ。平成28年度から朝日地域が事業の対象外となり、朝日庁舎内でも大鳥池・以東岳の魅力を向上させる取組みが必要である。</p>	
<b>6 達成度</b>	3 当初予定した事業の大部分に取り組んだが、成果が出ていない（未達成）
<b>7 今後の事業の進め方</b>	
<p>大鳥池・以東岳登山者の安全確保のために、今後も登山道の刈払・維持管理等の整備を行う。</p> <p>平成28年度は県単独事業で吊橋のワイヤーケーブルの更新、支柱のひび割れが補修されたが、標柱や看板の劣化もあることから、山形県と検討する。</p> <p>以東岳周辺の登山道については、軟弱になっている箇所や安全に誘導するための整備が必要であり、このことについても県と検討する。</p>	

**朝日地域振興計画 取組み状況調書 (2)-2-③**

<b>1 施策の基本方針</b>	(2) 山村生活文化の継承による地域づくり
<b>2 具体的な展開方策</b>	2. 自然体験学習活動の推進 ③休耕地を活用した体験型農園の整備
<b>3 事業の概要</b>	休耕地を活用した市民農園整備に積極的に取り組み、大鳥自然の家などの短期滞在型施設を拠点とする体験型農園の設置を検討する。また、空き家を活用した滞在型市民農園整備も併せて検討する。体験型農園は、作物の管理や栽培指導を地元住民が支援できる体制整備を検討する。
<b>4 これまでの取り組み内容</b>	H26～H28
	・取り組んだ事業なし
<b>5 これまでの取組みにおける事業の実績と課題</b>	
	<p>特に取り組んだ事業はなかった。</p> <p>大鳥自然の家などの短期滞在型施設を拠点とする体験型農園の設置については、農園提供方法等を含め、今後検討する。</p> <p>また、空き家を活用した滞在型市民農園整備については、空き家利活用方法から検討する必要がある。</p>
<b>6 達成度</b>	4 当初予定した事業に取り組まず、相当の課題が残っている（未実施）
<b>6 今後の事業の進め方</b>	
	大鳥自然の家などの短期滞在型施設を拠点とする体験型農園の設置については、制度的な課題などから取組みを進め、実証実験の実施に向けて検討する。

## 朝日地域振興計画 取組み状況調書 (2)-2-④

<b>1 施策の基本方針</b>	(2) 山村生活文化の継承による地域づくり
<b>2 具体的な展開方策</b>	2. 自然体験学習活動の推進 ④スタッフのスキルアップと施設整備
<b>3 事業の概要</b>	<p>大鳥自然の家のスタッフについて、利用者ニーズに沿った自然体験プログラムを実施できるスキルアップのための研修に積極的に取り組む必要がある。</p> <p>大鳥自然の家の施設については、自然の中で過ごすことを求めてもらえるような施設整備のあり方を検討する。</p>
<b>4 これまでの取組み内容</b>	<p>H26～H28</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大鳥自然の家の指定管理者制度導入に伴い新任者研修等を実施 H26</li> <li>・先進地視察研修の実施（金峰少年自然の家・遊学の森）H28</li> </ul>
<b>5 これまでの取組みにおける事業の実績と課題</b>	<p>スタッフのスキルアップについては、取組み始めたばかりであり、まだ、成果までに至っていない。今後、利用者のニーズに沿った自然体験プログラムを提供していく。</p> <p>施設整備については未着手であり、今後、耐震対応を中心に、自然の中で過ごすことが感じられるような施設づくりを検討する。</p>
<b>6 達成度</b>	4 当初予定した事業に取り組まず、相当の課題が残っている（未実施）
<b>7 今後の事業の進め方</b>	<p>大鳥自然の家スタッフが、利用者の目線で自然体験プログラムを提供できるようスキルアップに努め、施設利用者の増加につなげていく。</p> <p>大鳥自然の家の施設整備については、今後、耐震対応を中心に事業を検討していく。さらに、改修が必要な際には、環境にあった形になるよう検討する。</p>

## 朝日地域振興計画 取組み状況調書 (2)-3-①

<b>1 施策の基本方針</b>	(2) 山村生活文化の継承による地域づくり
<b>2 具体的な展開方策</b>	3. 観光資源の再生と人材活用 ①観光の根幹を担う人材の育成
<b>3 事業の概要</b>	魅力ある観光資源を十分に生かし地域に人を呼び込むためには、観光地域全体を担い、支えることができる人材が必要不可欠である。知識・スキルの標準化が必要であることはもちろんのこと、地域に対する愛着と誇りをもち、さらに地域色にあふれた人材育成に取り組んでいく。
<b>4 これまでの取組み内容 H26～H28</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・街道巡回及び管理業務</li> <li>・標識杭・標柱・案内板・石階段等整備、山岳トイレ整備</li> <li>・トレッキングイベントの実施</li> <li>・PR活動、団体育成等</li> </ul>	
<b>5 これまでの取組みにおける事業の実績と課題</b>	
<p>トレッキングイベントの計画・実施により、団体で街道を歩くことで、多くのトレッキング参加者が情報を共有できるとともに街道案内人の育成が進んでいる。しかし、街道案内人の高齢化が進んでおり、若い年齢層を取り込めるような魅力的なイベントの開催を検討していく必要がある。</p>	
<b>6 達成度</b>	3 当初予定した事業の大部分に取り組んだが、成果が出ていない（未達成）
<b>7 今後の事業の進め方</b>	
<p>ソフト事業の充実として、どのようにして昔の人は街道を歩いたかを検証しながら再現したり、十五詣、六十詣等の記念すべき「湯殿山詣」等の一定の目的のあるイベントを開催し、参加者に六十里越街道の魅力を深く知ってもらう方策を検討する。</p>	

## 朝日地域振興計画 取組み状況調書 (2)-3-②

<b>1 施策の基本方針</b>	(2) 山村生活文化の継承による地域づくり																									
<b>2 具体的な展開方策</b>	3. 観光資源の再生と人材活用 ②伝統・文化の継承と発掘																									
<b>3 事業の概要</b>	朝日地域には六十里越街道を始め、湯殿山信仰など、多彩で豊富な伝統資源に恵まれている。いずれも貴重な資源であり、これからも大切に維持・保全し、次世代に発展的に引き継ぎながら「残し、伝えていく」だけでなく資源として活用していく取り組みを展開する。																									
<b>4 これまでの取り組み内容</b>	<b>H26～H28</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形ディステーションキャンペーン 鶴岡地域の即身仏が安置される寺院巡りを実施 H26</li> <li>・大日坊、注連寺等の主要な施設に於ける周年イベントの告知。</li> <li>・六十里越街道に於けるアルゴディア研究会の発掘・研究・保存等。また、山船頭人ガイドの育成による後継者の育成。</li> <li>・文化創造館を利用した六十里越街道歴史資料の製作等。 H27・H28</li> <li>・鶴岡、朝日の著名人による個展などを文化創造館にて開催。</li> </ul>																									
<b>5 これまでの取組みにおける事業の実績と課題</b>	<p>歴史古道の六十里越街道の保全・整備については、出羽商工会、観光協会、アルゴディア研究会など民間の力が大きな役割を果たしている。ソフト面でも山船頭人協会によるツアーガイド、NPO 法人森と水によるイベントが実施されるなどしており、地域事業者、ツアー事業者、県外エージェントがトレッキングイベントを企画するなど、良好な運営がなされている。</p> <p>新たなスポーツとして日本でも急速に人気を博しているトレイルランニングのコースとしてイベントを開催し、新たな利用法としても大会開催の可能性について模索している。</p> <p>※主な神社、仏閣関係入込者数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>湯殿山神社</th> <th>大日坊</th> <th>注連寺</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27</td> <td>90,300</td> <td>25,500</td> <td>12,700</td> <td>128,500</td> </tr> <tr> <td>26</td> <td>95,600</td> <td>15,400</td> <td>13,400</td> <td>124,400</td> </tr> <tr> <td>25</td> <td>75,600</td> <td>14,000</td> <td>12,000</td> <td>101,600</td> </tr> <tr> <td>24</td> <td>80,000</td> <td>15,800</td> <td>12,800</td> <td>108,600</td> </tr> </tbody> </table>	年度	湯殿山神社	大日坊	注連寺	合計	27	90,300	25,500	12,700	128,500	26	95,600	15,400	13,400	124,400	25	75,600	14,000	12,000	101,600	24	80,000	15,800	12,800	108,600
年度	湯殿山神社	大日坊	注連寺	合計																						
27	90,300	25,500	12,700	128,500																						
26	95,600	15,400	13,400	124,400																						
25	75,600	14,000	12,000	101,600																						
24	80,000	15,800	12,800	108,600																						
<b>6 達成度</b>	3 当初予定した事業の大部分に取り組んだが、成果が出ていない（未達成）																									
<b>7 今後の事業の進め方</b>	アルゴディア研究会含め六十里越街道関係者の高齢化が進んでいるが、若手への継承にも力をいれており、新しい語り部も少ないが誕生している。																									

## 朝日地域振興計画 取組み状況調書 (2)-3-③

<b>1 施策の基本方針</b>	(2) 山村生活文化の継承による地域づくり																									
<b>2 具体的な展開方策</b>	3. 観光資源の再生と人材活用 ③湯殿山スキー場エリアの振興																									
<b>3 事業の概要</b>	県内有数の規模を誇る湯殿山スキー場と月山あさひサンチュアパークは、庄内地方でも最大規模の施設である強みを生かし、中台池トレッキングやノーシュートレッキングなど、品倉山周辺の自然の利活用を進め振興を図るとともに、グリーンツーリズムや6次産業化、地産地消を幅広く展開し、観光資源として幅広い活用を図っていく。																									
<b>4 これまでの取組み内容 H26～H28</b>																										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・サンチュアパークの利用者特典として、魚つかみやパン焼き、アート工芸など、夏休み、シルバーウィーク企画等を開催。</li> <li>・中台池への紅葉トレッキング。</li> <li>・多彩なウィンタースポーツが気軽にできるスキーエリアを目指す。</li> </ul>																										
<b>5 これまでの取組みにおける事業の実績と課題</b>																										
<p>多様性のあるレジャーの普及については、外部団体ではあるがテレマークスキーやスノートレッキングなどに取り組んでいる。以前は家族キャンプが主流だったが、近年はトレッキングや登山のベースキャンプとして中高年の長期利用が多い。</p> <p>四季味わいの企画、ショートトレッキング、ブナの森歩きについて頻度は少ないが、中台池の見事な紅葉は、梵字川溪谷紅葉バスツアー等でも人気のスポットとなっており今後利用の増加が期待される。</p> <p>※各スキー場リフト輸送延人数</p>																										
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">年度</th> <th style="width: 20%;">羽黒山 (指定管理+休暇村)</th> <th style="width: 20%;">たらのき代 (直営)</th> <th style="width: 20%;">湯殿山 (指定管理)</th> <th style="width: 10%;">合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27</td> <td style="text-align: right;">66,142</td> <td style="text-align: right;">84,225</td> <td style="text-align: right;">305,133</td> <td style="text-align: right;">455,500</td> </tr> <tr> <td>26</td> <td style="text-align: right;">109,502</td> <td style="text-align: right;">122,893</td> <td style="text-align: right;">269,143</td> <td style="text-align: right;">501,538</td> </tr> <tr> <td>25</td> <td style="text-align: right;">101,360</td> <td style="text-align: right;">128,368</td> <td style="text-align: right;">295,720</td> <td style="text-align: right;">525,448</td> </tr> <tr> <td>24</td> <td style="text-align: right;">103,468</td> <td style="text-align: right;">122,754</td> <td style="text-align: right;">311,300</td> <td style="text-align: right;">537,522</td> </tr> </tbody> </table>	年度	羽黒山 (指定管理+休暇村)	たらのき代 (直営)	湯殿山 (指定管理)	合計	27	66,142	84,225	305,133	455,500	26	109,502	122,893	269,143	501,538	25	101,360	128,368	295,720	525,448	24	103,468	122,754	311,300	537,522
年度	羽黒山 (指定管理+休暇村)	たらのき代 (直営)	湯殿山 (指定管理)	合計																						
27	66,142	84,225	305,133	455,500																						
26	109,502	122,893	269,143	501,538																						
25	101,360	128,368	295,720	525,448																						
24	103,468	122,754	311,300	537,522																						
<b>6 達成度</b>	4 当初予定した事業に取り組まず、相当の課題が残っている (未実施)																									
<b>7 今後の事業の進め方</b>																										
ツアーガイド人材育成・中台池エリアでのイベントや、地元メニューの拡充。																										

## 朝日地域振興計画 取組み状況調書 (2)-4-①

<b>1 施策の基本方針</b>	(2) 山村生活文化の継承による地域づくり
<b>2 具体的な展開方策</b>	4. 移住・定住の促進 ①集落自治機能の維持・再生
<b>3 事業の概要</b>	集落自治に対する支援のあり方や集落再編による負担の軽減に向けた研究など、集落自治機能の維持・再生に向けた施策を展開する。また、コミュニティ活性化するために生涯学習活動を充実し、芸術文化振興を支援するなど、活力ある地域づくりを進めていく。
<b>4 これまでの取組み内容 H26～H28</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民自治組織総合交付金を平成 26 年度に新設し、自治会活動を継続して支援。</li> <li>・各自治会の防犯灯の LED 化による更新を実施 H26</li> <li>・公民館改修事業への支援 H26 大針下・H27 谷口・H28 野中</li> <li>・自治振興会等活動基盤整備事業補助金を平成 26 年度に新設し、広域コミュニティ組織を設立。3 地区の広域コミュニティ連合組織が、朝日地域の自治機能再生に寄与するため、コミュニティ活性化を強化。</li> <li>・各広域コミュニティ組織の生涯学習事業等の活動を始め、地区の防災・福祉等の活動を支援するために、広域コミュニティ組織運営・地域づくり交付金の交付を継続。</li> <li>・伝統食をつなぐ会の実施 朝日南部自治会連絡協議会による伝統文化の継承事業</li> <li>・あさひ産業文化まつり事業補助金を平成 27 年度に新設し、朝日地域の芸術文化振興の活性化を支援。</li> </ul>	
<b>5 これまでの取組みにおける事業の実績と課題</b>	
<p>集落自治機能については、住民自治組織総合交付金の交付や防犯灯の LED 化による更新、一部自治会の公民館改修事業補助などにより、組織活動の維持は可能となっている。しかし、世帯減少は歯止めがかかっていないため、共有財産の維持管理について負担が大きくなってきている。</p> <p>旧小学校単位での広域コミュニティ組織を設立されたことにより、地区住民の生涯学習事業等が充実してきている。また、地区の防災や福祉などの活動については、これからの取組みとなる。</p> <p>芸術文化振興については、伝統文化や伝統芸能が衰退してきているので、今後、後世に残るように更なる取組みが必要である。</p>	
<b>6 達成度</b>	1 当初予定した事業に全て取組み、具体的な成果が表れている (達成)
<b>7 今後の事業の進め方</b>	
<p>集落自治機能の維持・再生は、喫緊の課題であるので、今後、小規模となってしまった自治会を中心に課題を把握し、特に再生計画策定に取り組む必要がある。</p> <p>広域コミュニティ組織は、設立後 2 年経過したことから、今後、各地区の集落自治機能の課題についても、共同で取り組んでいけるよう検討する必要がある。</p>	



朝日地域振興計画 取組み状況調書 (2)-4-②

1 施策の基本方針	(2) 山村生活文化の継承による地域づくり
2 具体的な展開方策	4. 移住・定住の促進 ②定住支援対策の推進
3 事業の概要	市街地から遠隔であることや、山間、豪雪など自然環境が厳しいことで生活費が増嵩し、市街地への転出の要因になっていることから、山間地、豪雪地、小規模集落などに対する行政支援の重点的な配分の必要性や住民負担のあり方などを研究し、地域に住み続けることができる条件を整備していく。また、高齢者でも安心して住み続けることができる生活環境と、後継者が定着できるような環境を整備する。
4 これまでの取組み内容 H26～H28	
<p>「小さな拠点」づくり推進事業への取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「小さな拠点」づくりの取組みについて大網地区自治会長会議で説明。 H26</li> <li>・東部地区自治振興会地域づくり部会で取組みについて説明。H27</li> <li>・東部地区自治振興会理事会で「小さな拠点」づくり事業に取り組むことを決定。</li> <li>・大網地区「小さな拠点」づくり検討委員会の設置 5集落から24名、外部委員3名 検討委員会を6回開催 地域課題の抽出、課題解決の提案を行うワークショップ等を実施し「地域デザイン」を策定。</li> <li>・社会実験の実施 地域内移動支援、小さな産直、大網学校同窓会へ協力依頼、ふれあいサロン、Facebook 開設</li> <li>・地域デザインを実現していくための活動拠点として、旧大網小利活用について検討</li> </ul>	
5 これまでの取組みにおける事業の実績と課題	
<p>今できることを社会実験として実施しているが、地域内移動支援については周知不足もあり、利用者が少ない。 地域デザインに基づく取組みを実践していく組織体制づくりが必要となっている。</p>	
6 達成度	3 当初予定した事業に大部分に取り組んだが、成果が出ていない（未達成）
7 今後の事業の進め方	
<p>地域デザインに基づく各種事業の実践に向けた支援を行う。実施主体は地域であり、地域デザインに基づく取組みを実践していく組織体制づくりを検討する。 合わせて、地域デザインを実現していく活動拠点施設の整備について話し合いを進める。</p>	

## 朝日地域振興計画 取組み状況調書 (2)-4-③

<b>1 施策の基本方針</b>	(2) 山村生活文化の継承による地域づくり
<b>2 具体的な展開方策</b>	4. 移住・定住の促進 ③移住推進施策の展開 (2-1)
<b>3 事業の概要</b>	UIターン対策として、空き家情報の管理・運営により売買・賃貸に結びつけるような施策を展開するとともに、地域おこし協力隊などの制度を積極的に活用することによって外部人材を導入し、地域活力の向上をめざす。
<b>4 これまでの取組み内容 H26～H28</b>	
<p>・平成 25 年度から「地域おこし協力隊」制度を導入し、大鳥地区に隊員を 2 名配置した。地域行事やイベントへの応援、地域づくり活動への参画、共同作業や高齢者の生活支援といった寄り添い型の支援を通じて、地域力の維持・強化を図った。昨年 4 月末で 3 年の任期満了を迎えたが、2 名とも引き続き大鳥に住み続けており、それぞれ起業に向けた準備を進めている。</p> <p>[全市での取組み]</p> <p>・NPO 法人つるおかランド・バンクが運営する「空き家バンク事業」を通じて、市内の空き家・空き地の情報を発信し、購入または賃貸を希望される方と所有者をつないでいる。</p>	
<b>5 これまでの取組みにおける事業の実績と課題</b>	
<p>大鳥地区では、地域おこし協力隊がいることで、何かに取り組む気運・意欲が高まった。また、住民の期待も大きく、外からの視点での取組みなど、地域に元気が出てきた。2 人の存在は大きく、事業の企画・実践に中心的な役割を果たしてくれた。</p>	
<b>6 達成度</b>	1 当初予定した事業に全て取組み、具体的な成果が表れている (達成)
<b>7 今後の事業の進め方</b>	
<p>[全市での取組み]</p> <p>移住コーディネーターを中心に、ガイドブックや移住・定住促進サイトでの情報発信を通じ、空き家バンクや住宅に関する支援制度を紹介し、住まい探しを支援していく。</p>	

## 朝日地域振興計画 取組み状況調書 (2)-4-③

<b>1 施策の基本方針</b>	(2) 山村生活文化の継承による地域づくり
<b>2 具体的な展開方策</b>	4. 移住・定住の促進 ③移住推進施策の展開 (2-2)
<b>3 事業の概要</b>	移住希望者がスムーズに地域に定着することができるような「職」「住」の受け皿づくりを研究する。
<b>4 これまでの取り組み内容 H26～H28</b>	
<p>[全市での取り組み] (地域振興課)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ つるおかUIターンガイド「KiRo (キロ)」の発行。H26</li> <li>・ 移住コーディネーターの配置。H27</li> <li>・ 移住・定住促進サイト「前略つるおかに住みマス」の開設。H27</li> <li>・ 移住ガイドブック「Cue: (キュー)」の発行。H27</li> <li>・ 「お試し住宅」入居者を募集。H28 本市への移住・定住に向けた仕事や住まい探し等を支援。</li> <li>・ 「鶴岡ジョブカフェ」の開催 H28 地元企業の採用担当者も東京に出向き、就職相談会と移住相談を同時に実施。</li> <li>・ 移住プロモーション動画(本編/インタビュー編)を公開。H28</li> <li>・ 首都圏での移住フェア等への出展。H27、H28</li> <li>・ 県と連携した広域(庄内地区)での首都圏での移住相談会の開催。H27、H28</li> </ul>	
<b>5 これまでの取り組みにおける事業の実績と課題</b>	
<p>[全市での取り組み]</p> <p>移住コーディネーターによるきめ細やかな相談業務を核として、移住に関するリーフレットやガイドブック、移住プロモーション動画、移住・定住促進サイトなどの情報発信ツールの整備を図るとともに、首都圏在住者を対象とした「つるおかUIターンサポートプログラム」の実施にも取り組んだ結果、移住相談件数は、26年度15件から27年度90件に増加し、内、22件32人が移住につながった。28年度の相談件数は、1月末現在で85件と昨年を上回るペースで推移しており、内8件15人が移住につながっている。(参考:今後、年度内に8件、25人の移住が確定している)</p> <p>今年度は、「鶴岡ジョブカフェ」を開催し、地元企業の採用担当者も東京に出向き、就職相談会と移住相談を同時に実施した。さらに「お試し住宅」入居者を募集し、本市への移住・定住に向けた仕事や住まい探し等を支援している。なお、朝日地域のお試し住宅で1件契約となり、20代の若者が10月より入居している。</p>	
<b>6 達成度</b>	(地域振興課担当)
<b>7 今後の事業の進め方</b>	
<p>[全市での取り組み]</p> <p>移住・定住促進サイトをはじめ、移住に関する情報コンテンツの充実に努めるとともに、県と連携した情報提供、イベント参加など効果的な事業展開に努めていく。</p> <p>また、短期滞在する中で、鶴岡での暮らしを体験できるお試し居住施設の整備を進める。</p>	

# 朝日地域振興計画



平成26年3月  
鶴岡市朝日庁舎

## 目 次

1. 計画の策定趣旨	1
2. 地域の特性・概要	1
3. 地域のこれからめざす方向性	2
4. 施策の基本方針	3
基本方針（1）「山の恵みを活かした複合農業の推進」	3
基本方針（2）「山村生活文化の継承による地域づくり」	3
5. 具体的な展開方策	3
基本方針（1）- 1. 山ぶどう加工品開発の推進	3
基本方針（1）- 2. “山の恵み” 産地化の推進	4
基本方針（1）- 3. 地域特性を生かした再生可能エネルギー活用	5
基本方針（2）- 1. 六十里越街道“癒しと再生の道”づくり	6
基本方針（2）- 2. 自然体験学習活動の推進	7
基本方針（2）- 3. 観光資源の再生と人材活用	8
基本方針（2）- 4. 移住・定住の促進	9
*資料	
統計資料（朝日地域の指標）	11

# 朝日地域振興計画

## 1. 計画の策定趣旨

平成17年10月の合併後、鶴岡市では各地域で築かれてきた地域特性や地域固有の資源を生かしたまちづくりを進めるため、特性ある地域発展に向けた中長期プロジェクトづくりに取り組みました。

各地域庁舎において、自然、歴史、文化、産業及び主要施策などの地域資源や地域特性、また地域の実態についての調査や分析を行いながら、これまでの活用方法等についての点検も行い、新たに活用すべき資源や解決すべき課題等についても調査、検討を深め、重点的に取り組むべき分野や政策課題を抽出して、具体的に施策として推進するための個別プロジェクトを設定し、平成20年3月に地域庁舎ごとに地域振興ビジョンを策定しました。

朝日庁舎では、“地域産業振興プロジェクト”と“「市民の森・市民の溪谷」振興プロジェクト”の二つのプロジェクトを掲げ、山ぶどう加工品開発や山の恵みの産地化、六十里越街道や大鳥自然の家のグレードアップなどに取り組み、地域振興を進めてきたところです。

しかし、策定から6年が経過した現在、社会や地域を取り巻く状況が変化し、課題を捉え直す必要もあることから、先に策定した地域振興ビジョンの見直しを行い、新たな地域振興計画を策定することとしたものです。

「朝日地域振興計画」は、鶴岡市総合計画の基本構想や後期基本計画との整合性を図りながら、朝日地域の資源や特性を生かした地域振興をさらに推進していくため、地域をめざす方向と重点的に推進する取組みについて明らかにするものです。

計画期間は平成26年度から平成30年度までの5年間とし、朝日地域のさらなる振興・発展に向け、この計画に基づき地域振興のための取組みを展開しながら、特色あるまちづくりを推進していきます。

## 2. 地域の特性・概要

朝日地域の特性は、時代が移り変わろうとも容易に変わることのない「緑豊かで広大な自然」ですが、それは豊かな森林資源を生み出す大いなる恵みであると同時に、住む人には厳しい生活環境を強いるという二面性を併せ持っています。



特に雪対策は、朝日地域にとって永遠の課題であり、雪が生活にもたらす負担を軽減するために多大な労力と経済的な負担がかさみ、住み慣れた土地を離れる大きな要因となってきました。

また、広大な森林資源を有効に活用することも重要な課題ですが、豪雪地帯であるが故に生じる造林コストの増加や雪害等によって生産性は低く、経済活動としての森林施業

もままならないことから、荒廃が進んでいるのが現状です。それと相まって、鳥獣が活動範囲を森林から里山にまで広げたことで農作物の被害が拡大しており、直接的な被害もさることながら、生産意欲の減退などの深刻な影響をもたらしています。

国土の維持・保全という観点では、水源かん養や土砂流出の防止を図る上でも森林が果たす役割は大きく、山村に人が住み、森林が持つ多面的な機能を維持しながら自然環境を守っていくことは公益性が高い活動であることから、そこに住む人の労力が多く注ぎ込まれることに対する理解を深め、定住を支援するための施策を展開する必要があります。

住民生活においては、集落の世帯数が減少することに伴って、自治機能の停滞が顕在化しています。すでに消滅した集落もあり、現在も5集落が世帯数10戸以下となっており、今後こうした小規模集落の増加が予想されるとともに、高齢化率も徐々に上昇していることから、集落再編も現実的な方策として視野に入れながら、集落を維持するための取り組みが急務となっています。

### 3. 地域のこれからめざす方向性

朝日地域は、霊峰月山・朝日連峰に抱かれた美しく豊かな自然に恵まれた地域であり、古来より自然と調和した独特の生活文化や生産様式が生まれ、こうした特性から、合併後は本市のめざす森林文化都市構想の中核的な役割を担っていくべき地域として、朝日地域振興ビジョンに基づき地域活性化事業を推進してきました。

本地域においては「美しく豊かな自然」と、そこから生み出される「森林の恵み」、さらには「山郷<sup>やまご</sup>の生活文化」が伸ばすべき資源であり、住民自身がその価値観を共有することが求められているとともに、自然と共生したスローライフを標榜する人材を積極的に外部に求めていくことも必要です。

また、月山ワインなど特産品の多くは、森林の恵みと住民の知恵の結晶であり、農家の複合経営の安定化に一定の役割を果たすとともに、住民にとっても誇るべき財産となっています。

今後とも、森林の恵みにこだわった農林産物の生産と、その加工品のブランド化を推進するとともに、地場産業の拡大と自然環境保全との均衡を保ちながら農林業の持続的な振興を図るため、豊富な雪・水源・木材などといった朝日地域の風土を生かした再生可能エネルギーの開発を進め、自然にやさしい安全・安心な食糧を生産することにより、山郷<sup>やまご</sup>の暮らしの安定と農林産物の多様化を推進します。

また、美しく豊かな自然を活用した子どもたちの自然学習、住民も訪れる人も“いきいき”と楽しむことができる自然体験・心と体の健康や癒しの場、山岳信仰にまつわる歴史・文化遺産の学習機会を提供できるよう多彩なプログラムの開発を進め、市民が森林に関心と親しみを持って接することのできる環境づくりに努めます。

本地域においては、自然と巧みに調和しながら、多様な森林機能と住民生活との融



合を図り、山村生活文化を継承することにより、心豊かに生活できる地域づくりをめざします。

#### 4. 施策の基本方針

##### 基本方針（１）「山の恵みを活かした複合農業の推進」

朝日地域を象徴する特産物である山ぶどうについては、引き続き月山ワインの消費拡大により安定生産を推進するとともに、ワイン以外の加工品開発を展開する必要があります。

また、基幹作物である稲作と組み合わせ、庄内柿などの園特作物の振興により安定的な経営をめざしながら、少量多品目の林産物の生産と、その加工品の開発・研究に取り組むとともに、生産者自身が市場に直結する販路の確立をめざします。

さらには、再生可能エネルギーの導入により、自然環境の保全を図るとともに特産品の付加価値を向上させ、安定した複合経営の実現をめざしていきます。

##### 基本方針（２）「山村生活文化の継承による地域づくり」

厳しい自然環境の中で生活を営むには、住む人自身が森林と共存・共栄する生活を楽しみ、文化を理解し継承していくことが必要であり、それが外部からの交流や定住による人材を呼び込むことにもつながります。

自然体験学習活動の重要性を理解し、幼少期から利用できる多彩なプログラムを提供することによって朝日地域の魅力を伝えるとともに、地域全体を活動フィールドとしたトレッキング等、多様な歴史・文化・環境学習事業の展開により、森林文化都市の中核を担っていきます。



また、山村生活文化を継承していくために、集落自治機能を維持・再生することによって定住を促進し、併せて外部人材を積極的に呼び込む施策を展開していきます。

#### 5. 具体的な展開方策

##### 基本方針（１）- 1. 山ぶどう加工品開発の推進

山ぶどうを原料とする「月山ワイン」は、地域を代表する特産品としての地位を確立しており、住民の誇りでもあります。原料である山ぶどうは、朝日地域の自然、立地条件にあった作物として広く栽培され、長年の研究成果によって栽培技術も確立されていることから、安定した収穫量が期待できる特用林産物となっています。

さらなる山ぶどう振興策の展開により、減少傾向にある栽培面積の拡大を進めて地域農業の振興を図るため、新品種ワインの醸造と新たな加工品開発の取り組みを



支援します。

#### ①月山ワインの新商品開発の推進

月山ワインは、山ぶどうを原料としたワインを中心に販路の積極的な拡大を図ってきましたが、多様化するニーズに応え新たな消費者を獲得するためには、山ぶどうを中心としながらも、他品種の原料を用いた新しい魅力に溢れたワインづくりを展開する必要があります。

このため、新商品開発に向けて必要となる製造施設としての充填ラインの整備やワインタンクの更新等によるワインの新商品開発を支援します。



#### ②山ぶどうの新規加工品開発の推進

山ぶどうの持つ健康食品としての効果を活用し、レーズンパン、山ぶどうタルト、シリアルクッキー、山ぶどうソースなどの多様な商品化に向けた研究開発を支援することで、販売促進を進めながら山ぶどう関連商品の消費拡大を図っていきます。

#### ③栽培農家の減少対策及び後継者育成

近年の山ぶどうの生産調整や価格の引き下げは、栽培農家のみならず地域農業に大きなダメージを与えました。さらには、農業従事者の高齢化の影響もあいまって栽培農家は急激に減少しています。

山ぶどうの安定した収穫量を確保するためには、生産農家の後継者育成が急務であり、若い世代にとって魅力ある経営環境を整えるような取り組みを展開します。

### 基本方針（1）- 2. “山の恵み”産地化の推進

朝日地域の特性である緑豊かで広大な自然から生み出される“山の恵み”は地域活性化の大きな柱となっていますが、少子高齢化の影響等によって山に入る人が減少していることから、森林の維持・管理が放棄され、将来的に山地の崩壊が懸念されます。

“山の恵み”を経済活動のみにとどまらず、国土保全の観点からも山里に暮らす基盤の一つとして位置付け、山地をうまく活用した特産品の栽培・加工技術の開発等に継続的に取り組むことで、里山の保全と山の恵みの産地化を促進します。

#### ①山の恵みのブラッシュアップと情報発信

朝日地域には、ぜんまい、ワラビに代表される山菜や、月山筍、山ぶどう、とちの実、マイタケ、ナメコなどの豊富な山の幸に恵まれています。これまでは素材が持つ魅力の発信が不十分でした。

地域が持っている潜在的な素材の魅力をさらに引き出しながら、より一層磨き上げることによって、消費者に満足していただくことができる“食”としての魅力

を発信していきます。

具体的には、市場の状況等から需要の拡大が見込まれる「行者にんにく」や野趣あふれる「ふきのとう」など、山の恵みの産地として広く認知されるよう、ブランドイメージ向上のための情報戦略を積極的に展開します。



## ②市場動向の把握と販売戦略の構築

食の安全が叫ばれる現代にあって、激化する市場競争に対応するには、常に一步先の需要動向を注視しながら、将来性が見込まれる新たな特産品の栽培・加工技術の開発を進めていく必要があります。

つくり手の顔が見え、最も新鮮で安全・安心な生産物を揃える産直は、消費者にぬくもりを感じさせる施設でもあることから、市内他地域の産直施設との相互連携を積極的に推進することで、マーケティング戦略としての、誰に・どんな価値を・どのように差別化し・どのように提供するかを明確にし、加工施設としての展開も視野に入れた機能向上を図るとともに、生産者自身が市場に直結する販路を確立することができるような仕組みを早急に整えます。

## ③新規部門の調査研究と商品開発

新たな特産品への取り組みとして「あさひむら特産品開発協議会」では、地域の特性を生かした生産者のこだわりのある加工品作りに向けた研修会の開催のほか、行者にんにくパウダー、行者パスタ、山ぶどうパスタなどの試作に取り組み、その成果として柿アイス、わらびうどんなどの新たな商品も誕生しています。

今後も、潜在的農産物の活用として、地域の特産品を使った新商品の研究開発により、地元はもとより、地産地消で終わらせるにはもったいない「地産外消」が可能となるような商品開発を進めます。

## 基本方針（1）- 3. 地域特性を生かした再生可能エネルギー活用

東日本大震災を契機に、再生可能エネルギーの利活用を推進する機運が高まっており、雪や水資源、森林資源などが豊富な朝日地域は、エネルギーの地産地消の方針に沿う地域であることから、雪冷熱や小規模水力発電の導入を検討します。

また、櫛引地域にバイオマス発電所の建設が計画されており、原料の供給は森林組合を中心とした林業関係者が重要な役割を担うことが想定されますが、安定供給を図ることが重要な課題となっています。雇用の創出も期待されることから運営を積極的に支援していきます。

### ①雪氷熱の活用研究

平成6年に整備された雪室「あさひの雪蔵」は、山菜の促成栽培等に活用されていますが、雪室の効果として米等の食味の保持も期待されており、併せて市域全体に利用拡大を図るために施設の拡充の可能性を探るなど、さらなる有効な利活用の研究が必要です。

また、雪の冷熱を循環させて夏季の冷房に利用する雪冷房について、豪雪を逆

手に取ったシンボルともなり得るシステムとして実験的な導入と運用をめざします。

### ②小規模水力発電の推進

水力発電は既に成熟した技術が確立されているため、中小河川や農業用水路などの流れを利用した小規模水力発電の導入は比較的容易であることから、発電した電力を隣接するビニールハウスの暖房に利用するなど、農業生産のコスト縮減に向けた取り組みを展開します。

また、発電の条件となる落差の大きい地形を生かし、緑豊かな水源地域のシンボルとして位置付け、地域全体で導入策を検討します。

### ③バイオマス発電の推進と原料の安定供給対策

櫛引地域に整備が予定されているバイオマス発電施設の原料を安定供給するためには、朝日地域の豊富な森林資源が大きな役割を担っていることから、効果的な森林施業を可能にする林道の整備や、林業事業者の機械化・省力化策を支援していきます。

併せて、バイオマスエネルギーの利用拡大をめざし、ペレットストーブや薪ストーブの普及に向けた取り組みを展開します。

## 基本方針（２）- １．六十里越街道“癒しと再生の道”づくり

六十里越街道は、湯殿山信仰の祈りの道として、また、庄内と内陸を結ぶ物流・交易の道として1200年の長い歴史を持っています。

明治30年代に表舞台から退いたこの街道を活用しようと、昭和60年代から「歴史ハイキング」が継続的に開催されたこともあり、地元住民等の手によって管理され、道標の設置や湿地帯の手入れなども絶えず行われてきました。

近年、中高年のトレッキングブームによってあらためて注目を集めるようになり、年間40回に及ぶ多種多様なツアーが企画され、利用者も大幅に増加していることから、インフラの整備、安全管理対策などが必要になっています。

街道周辺には、時代の名残をとどめる数多くの史跡がひっそりと眠り、森の香りや空気の清浄さが人の生理に及ぼす森林浴の効果と相まって、観光と交流、文化振興のいずれの面からも発展が見込まれる資源となっています。

この古道を歩いた人だけが感じ取ることができる“癒しと再生の道”としての魅力をさらに高め、地域振興の道として新しいプログラムの開発とガイド養成、マーケットの開拓、新規周遊ルートの開設等を推進します。



### ①森林セラピー基地・セラピーロード認定に向けた取り組み

六十里越街道がめざす“癒しと再生の道”づくりは、現在、全国的にも多くの森で取り組みが進む森林セラピー基地・セラピーロードとその方向性を同一にしています。

このため、セラピー効果を高める森林ガイド付き森林浴や関連施設等の整備と併せ、多様な森林浴が可能となるように市内の森と連携を強化し、さらには健康増進やリラクセスを目的としたセラピートレッキングプログラムの開発を推進することで、森林セラピー基地・セラピーロードとしての認定をめざします。

## ②マーケットの拡大

六十里越街道は昨今のトレッキングブームにより、旅行代理店によるツアー企画なども実施される状況になっていますが、世界遺産に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」（熊野古道）に比較した場合には知名度が低く、単独では集客力が弱いことから、面的な展開が必要になっています。

このため、月山ビジターセンターや高館山散策道、下池湖畔道等と有機的に連携することで集客力を高め、積極的にマーケットを拡大する方策を展開します。

## ③トレイルランニングなどの新たな取り組み

トレイルランニングは未舗装で起伏のある山道を走る競技で、近年のランニングブームやトレッキングブームもあり急速に愛好者が増え、競技会も数多く開催されるようになっていきます。

六十里越街道から月山山頂を経由する登山道は、距離や高低差、自然環境など、トレイルランニングコースとしての条件を満たしているばかりでなく、その魅力を十分に秘めていることから、大会の誘致などに取り組み、六十里越街道に新たな客層を取り込んでいきます。

## 基本方針（2）- 2. 自然体験学習活動の推進

美しく豊かな自然に囲まれた朝日地域では、大鳥自然の家を始めとする自然体験学習の拠点があり、市民の体験の場として広く活用されています。

森林に恵まれたこの地域では、地元住民と協働で多様な自然体験学習プログラムを提供しており、今後とも朝日地域の魅力を十分活用できるよう、自然体験学習活動の拠点整備・プログラム整備に努めます。

### ①自然の恵みを活用したプログラム整備

大鳥自然の家ではツリー・クライミングを始め、魚つかみやカヌーなど、森林や河川で子どもたちが、のびのびと自然学習体験ができるようプログラムが整備されているほか、湯殿山スキー場近くの中台池周辺では、冬はスノーシューを使用することで、通年、トレッキングが行われています。

現在、多くの人に親しまれている体験プログラムの魅力を生かすとともに、十分に魅力が伝わっていない自然体験活動を掘り起こし、幅広い年齢層に親しまれるプログラムを体系的に整備しま



す。

#### ②大鳥山系を活用したトレッキング・プログラムの整備

大鳥池や以東岳、さらには新潟県境につながる朝日スーパーライン沿線の雄大な自然景観は魅力に溢れており、大鳥自然の家を拠点とした大鳥池・以東岳などへの登山は、市内の小学校などから積極的に利用されているものの、朝日スーパーラインについては近年、通行可能日数が減少しており、この沿線の活用が大きな課題となっています。

このため、朝日スーパーラインの通行可能期間の拡大を図ることで沿線での事業展開につながるとともに、大鳥池・以東岳については、登山に加えてより多くの人に訪れてもらえるようにトレッキングコースとして位置づける整備手法について検討します。



#### ③休耕地を活用した体験型農園の整備

朝日地域では、農業経営者の減少に伴い休耕地が拡大しており、今後も休耕地は増え続けると考えられます。

これらの休耕地を活用した市民農園整備に積極的に取り組み、大鳥自然の家などの短期滞在型施設を拠点とする体験型農園の設置を検討します。

また、空き家の増加も深刻な問題となっていることから、空き家を活用した滞在型市民農園整備も併せて検討します。

また、体験型農園は不在時の作物の管理や栽培指導などの支援が必要になることから、これらを地元住民が支援できるような体制整備を検討し、短期滞在型の体験農園として市街地や都会の人々を呼び込む体制を整えます。

#### ④スタッフのスキルアップと施設整備

大鳥自然の家では、金峰少年自然の家を始めとする自然学習体験施設の活動を視察・情報収集し、スタッフのスキルアップに日々努めていますが、近年はレジャーの多様化によりニーズが変化しており、利用者ニーズを収集する能力やニーズに沿った自然体験プログラムを実施できるスキルが求められることから、スタッフの研修に積極的に取り組むことが必要です。

大鳥自然の家は、昭和52年に設置されたものであり経年劣化が著しいが、大規模な施設修繕によらず、美しく豊かな自然に囲まれた朝日地域の魅力を前面に出し、自然の中で過ごすことを求めてもらえるような施設整備のあり方を検討します。

### 基本方針（2）- 3. 観光資源の再生と人材活用

朝日地域は広大な山岳地帯を抱え、その44%が磐梯朝日国立公園であり、多種多様な魅力を持つ観光資源に満ちあふれています。

歴史や文化、四季が織りなす風景、山と川が奏でる手つかずの自然が残されており、タキタロウの巨大魚伝説、湯殿山信仰、月山文学や登山、トレッキング、オートキャンプ、レジャースキーなど、四季を通じて壮大な自然の中でアウトドアスポーツに気軽に親しむことができます。

これらの観光資源を十分に生かすため、観光客への対応や満足度をあげることで人が人を呼び込む観光システムを構築し、再び訪れたいくなるような基盤づくりに取り組めます。

#### ①観光の根幹を担う人材の育成

魅力ある観光資源を十分に生かし地域に人を呼び込むためには、観光地域全体を担い、支えることができる人材が必要不可欠です。

現在も六十里越街道の整備や、トレッキングで訪れる観光客のガイドを行っている「アルゴディア研究会」、契約村民に体験型の観光メニューを提供している「大鳥タキタロウ村」などが活動を行っていますが、知識・スキルの標準化が必要であることはもちろんのこと、地域に対する愛着と誇りを持つことが観光客を引き付ける魅力の源泉ともなり得ることから、さらに地域色にあふれた人材育成に取り組んでいきます。



#### ②伝統・文化の継承と発掘

朝日地域には六十里越街道を始め、湯殿山信仰など貴重な史跡、有形・無形の伝統文化財が数多く残っており、多彩で豊富な伝統資源に恵まれています。

いずれも先人達が長年にわたり守り育んできた貴重な資源であり、これからも大切に維持・保全し、次世代に発展的に引き継いでいくことはもちろんのこと、積極的に関わっていくことで「残し、伝えていく」だけでなく、資源として活用していく取り組みを展開します。

#### ③湯殿山スキー場エリアの振興

県内有数の規模を誇る「湯殿山スキー場」と、スキー場内のオートキャンプ場である「月山あさひサンチュアパーク」は、全国的なスキー人口の減少傾向と同様に利用者が減少していますが、庄内地方でも最大規模の施設である強みを生かし、中台池トレッキングやバックカントリースキー・スノーボード、スノーシュー・トレッキングなど、品倉山周辺の自然の利活用を有機的に進めて振興を図っていきます。

また、田麦俣地区の伝統文化も融合させながら、新たな視点からグリーンツーリズムや六次産業化、地産地消を幅広く展開し、観光資源として幅広い活用を図ります。

### 基本方針（２）- ４．移住・定住の促進

朝日地域は、過疎、高齢化が進み、集落の規模が縮小していることにより、地域

の自治機能が著しく低下しています。

このような状況を改善するために、コミュニティの維持や集落自治機能の活性化を推進し、定住することができる住みやすい地域をつくっていくとともに、Uターン、Iターンなどの移住を促進する施策を展開し、活力ある地域づくりを進めていきます。

#### ①集落自治機能の維持・再生

集落の世帯・人口減少によって共有財産の維持管理や自治会運営に支障をきたす集落が顕在化していることから、集落自治に対する支援のあり方や集落再編による負担の軽減に向けた研究など、集落自治機能の維持・再生に向けた施策を展開します。

また、コミュニティを活性化するために生涯学習活動を充実し、芸術文化振興を支援するなど、活力ある地域づくりを進めていきます。

#### ②定住支援対策の推進

朝日地域は市街地から遠隔であることや、山間、豪雪など自然環境が厳しいことで生活費が増嵩し、市街地への転出の要因になっていることから、山間地、豪雪地、小規模集落などに対する行政支援の重点的な配分の必要性や住民負担のあり方などを研究し、地域に住み続けることができる条件を整備していきます。

また、高齢者でも安心して住み続けることができる生活環境と、後継者が定着できるような環境を整備します。

#### ③移住推進施策の展開

U、Iターン対策として、空き家情報の管理・運営により売買・賃貸に結びつけるような施策を展開するとともに、地域おこし協力隊などの制度を積極的に活用することによって外部人材を導入し、地域活力の向上をめざします。

また、移住希望者がスムーズに地域に定着することができるような「職」、「住」の受け皿づくりを研究します。

[参考:統計資料]

区分		単位	朝日地域 (旧朝日村)	市全体
人口	H17. 10. 1	人	5, 378	143, 990
	H25. 9. 30	人	4, 673 (減少率 13.1%)	134, 909 (減少率 6.3%)
世帯数	H17. 10. 1	戸	1, 318	45, 493
	H25. 9. 30	戸	1, 367 (増加率 3.7%)	48, 342 (増加率 6.3%)
面積		k m <sup>2</sup>	569. 17	1311. 51
就業者数	H22国勢調査		2, 326	65, 987
		第1次産業	283 (12.2%)	6, 566 (10.0%)
		第2次産業	871 (37.4%)	19, 645 (29.8%)
		第3次産業	1, 167 (50.2%)	39, 298 (59.6%)
販売農家数	2010農林業センサス		426	4, 538
		専業	49	577
		第1種兼業	44	1, 187
		第2種兼業	333	2, 774
販売農家経営 耕地面積	2010農林業センサス	アール	72, 247 (1戸当り170a)	1, 436, 021 (1戸当り316a)
工業事業所数	H22工業統計調査	事業所	19	484
商業 (卸売業) 事業所数	H19商業統計調査	事業所	2	341
商業 (小売業) 事業所数	H19商業統計調査	事業所	47	1, 738
市営住宅	H25. 4. 1	戸	22	927
保育所	H25. 5. 1	所 (人)	1 (園児数 117)	41所 (園児数 3, 373)
幼稚園	H25. 5. 1	所 (人)	—	11所 (園児数 829)
小学校	H25. 5. 1	所 (人)	3 (児童数 172)	40校 (児童数 6, 755)
中学校	H25. 5. 1	所 (人)	1 (生徒数 111)	11校 (児童数 3, 787)
高等学校	H25. 5. 1	校	—	9
医療施設	H25. 4. 1	所	2 (病院 0) (一般診療所 1) (歯科診療所 1)	165 (病院 8) (一般診療所 107) (歯科診療所 50)





## 【各種割引制度】

- 障害をお持ちの方 … 半額
  - ア 療育手帳の交付を受けている者及びその介護人
  - イ 身体障害者手帳の交付を受けている者及びその介護人
  - ウ 精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びその介護人
- 小学生 … 半額
- 小学生未満 … 半額
  - ただし、保護者が同伴する場合は2名まで無料
- 庄内交通で発行している各種定期券をお持ちの方 … 全額
  - 通勤・通学定期、ゴールドパス、いきいきパス等をお持ちの方は、定期券と同じ区間について市営バスの運賃が無料となります。

## 【乗り継ぎ割引券をご利用ください】

鶴岡市営バス（大鳥・田麦俣線）と庄内交通の路線バスを乗り継いでご利用する方を対象とした「乗り継ぎ割引」制度があります。是非、ご活用ください。

- 利用方法
  - ・ 市営バス、庄内交通路線バスのどちらでも利用できます。
  - ・ 乗り継ぎ前のバスの精算時に、乗務員から「乗り継ぎ割引券」を受け取ってください。
  - ・ 乗り継ぎ後のバスの精算時に、乗務員へ「乗り継ぎ割引券」を渡し、割引後（100円引き）の料金をお支払いください。
  - ・ 有効期限は、当日限りです。ご注意ください。
  - ・ 紛失しても、再交付しません。

## 【お得な回数乗車券をご利用ください】

鶴岡市営バスで利用できるお得な回数乗車券を販売しています。100円券が22枚で2,000円と、200円お得となっています。是非、ご利用ください。

- 販売場所
  - ・ 鶴岡市企画部地域振興課 ☎0235-25-2111
  - ・ 鶴岡市羽黒庁舎総務企画課 ☎0235-62-2111
  - ・ 鶴岡市朝日庁舎総務企画課 ☎0235-53-2111
  - ・ 市営バス車内（乗務員）
- 利用方法
  - ・ 本券は、鶴岡市・市営バスでのみ使用できます。
  - ・ 切り離して降車の際に乗務員へ渡してください。
  - ・ 本券に対する、おつりのお支払はありません。
  - ・ 折ったり丸めたりしないで下さい。
  - ・ 紛失しても、再交付しません。



いつも市営バスをご利用いただき誠にありがとうございます。

またのご利用を心よりお待ちしております。

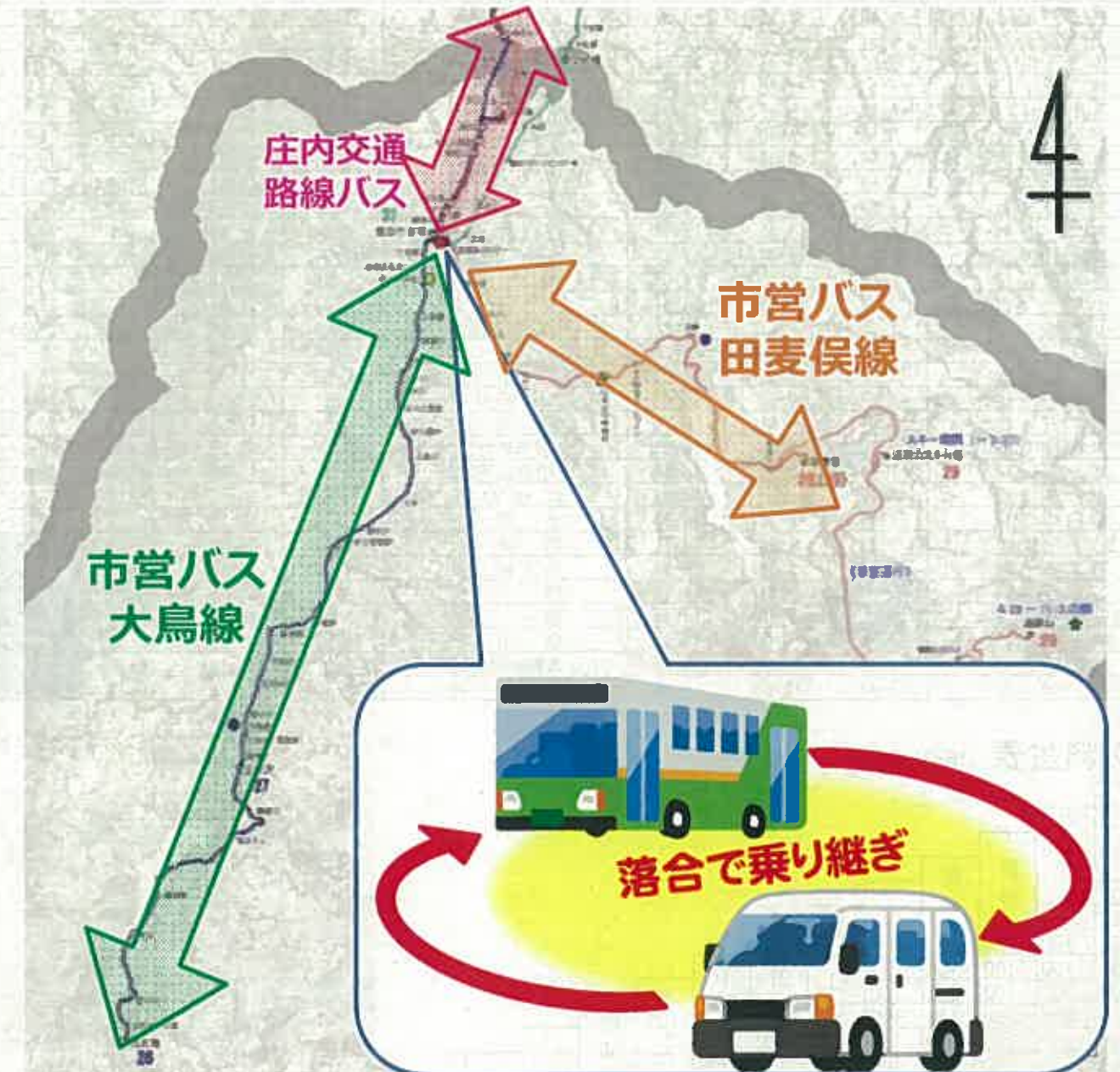


鶴岡市朝日庁舎総務企画課  
〒997-0492 山形県鶴岡市下名川字落合1 TEL: 0235-53-2111 FAX: 0235-53-2119

鶴岡市企画部地域振興課  
〒997-8601 山形県鶴岡市馬場町9-25 TEL: 0235-25-2111 FAX: 0235-25-2990

鶴岡市羽黒庁舎総務企画課  
〒997-0192 山形県鶴岡市羽黒町荒川字前田元89 TEL: 0235-62-2111 FAX: 0235-62-3755

# 朝日地域市営バス ご利用のしおり



平成29年4月1日版（案）



鶴岡市朝日庁舎総務企画課

◆ 大鳥線 (月・火・水・木・金運行：祝祭日と年末年始(12/31~1/3)を除く)

○ 時刻表

※ 通過時刻は、交通事情により前後する場合があります。あらかじめご了承ください。

のぼり	1便			くんだり	1便			
	庄内交通	市営バス	市営バス		市営バス	市営バス	庄内交通	庄内交通
松ヶ崎公民館		9:20	13:35	S モール	7:30	11:45	17:20	19:20
西大鳥	6:30	9:21	13:36	鶴岡駅	7:32	11:47	17:22	19:22
大鳥自然の家	6:31	9:22	13:37	朝日庁舎前	8:07	12:22	17:54	19:54
登山口	6:33	9:23	13:38	朝日保育園前	8:30	12:40	-	-
菅谷	6:36	9:25	13:40	朝日中央コミセン	8:31	12:41	-	-
勝岡橋	6:39	9:27	13:42	朝日庁舎前	8:32	12:42	-	-
荒沢ダム	6:43	9:31	13:46	下本郷	8:33	12:43	17:55	19:55
鱒淵口	6:47	9:33	13:48	湯ノ沢岳登山口	8:34	12:44	17:56	19:56
上田沢	6:50	9:35	13:50	朝日中学校	8:35	12:45	17:56	19:56
診療所前	6:50	9:35	13:50	上本郷	8:36	12:46	17:57	19:57
上田沢公民館前	6:51	9:36	13:51	高瀬口	8:37	12:47	17:58	19:58
南部コミセン前	6:52	9:37	13:52	本郷神社前	8:37	12:47	17:59	19:59
倉沢口	6:53	9:38	13:53	行沢口	8:38	12:48	17:59	19:59
下田沢仲村	6:54	9:39	13:54	中砂川	8:40	12:50	18:00	20:00
下田沢	6:55	9:40	13:55	砂川公民館	8:40	12:50	18:01	20:01
尾浦橋	6:56	9:41	13:56	砂川西村	8:41	12:51	18:02	20:02
八久和発電所	6:58	9:42	13:57	上砂川	8:42	12:52	18:03	20:03
大針上	6:59	9:42	13:57	小針	8:43	12:43	18:04	20:04
大針	7:00	9:43	13:58	西村口	8:44	12:54	18:05	20:05
大針公民館前	7:01	9:44	13:59	大針公民館前	8:45	12:55	18:06	20:06
西村口	7:02	9:45	14:00	大針上	8:46	12:56	18:07	20:07
小針	7:04	9:46	14:01	八久和発電所	8:47	12:57	18:08	20:08
上砂川	7:05	9:47	14:02	尾浦橋	8:49	12:59	18:09	20:09
砂川西村	7:06	9:48	14:03	下田沢	8:50	13:00	18:11	20:11
砂川公民館	7:07	9:49	14:04	下田沢仲村	8:51	13:01	18:12	20:12
中砂川	7:08	9:50	14:05	倉沢口	8:52	13:02	18:13	20:13
行沢口	7:09	9:51	14:06	南部コミセン前	8:52	13:02	18:14	20:14
本郷神社前	7:10	9:52	14:07	上田沢公民館前	8:53	13:03	18:15	20:15
高瀬口	7:11	9:53	14:08	診療所前	8:55	13:05	18:16	20:16
上本郷	7:12	9:54	14:09	上田沢	8:55	13:05	18:17	20:17
朝日中学校	7:12	9:55	14:10	鱒淵口	8:57	13:07	18:21	-
湯ノ沢岳登山口	7:13	9:56	14:11	荒沢ダム	9:00	13:10	18:25	-
下本郷	7:14	9:57	14:12	勝岡橋	9:03	13:13	18:28	-
朝日庁舎前		9:58	14:13	菅谷	9:05	13:15	18:32	-
朝日中央コミセン		9:59	14:14	登山口	9:07	13:17	18:34	-
朝日保育園前		10:00	14:15	大鳥自然の家	9:09	13:19	18:36	-
朝日庁舎前	7:15	10:20	14:35	西大鳥	9:10	13:20	18:37	-
鶴岡駅	7:47	10:54	15:09					

○ 料金表 (単位：円)

公松ヶ崎	大鳥登山口	菅谷	勝岡橋	荒沢ダム	鱒淵口	上田沢	南部C	下田沢	尾浦橋	八久和	大針	公民館	小針	上砂川	中砂川	行沢口	上本郷	下本郷	保育園前
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
200	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
200	200	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
200	200	200	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
200	200	200	200	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
300	200	200	200	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
300	300	200	200	200	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
300	300	300	200	200	200	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
300	300	300	300	200	200	200	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
400	300	300	300	200	200	200	200	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
400	400	300	300	300	200	200	200	200	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
400	400	400	300	300	300	300	200	200	200	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
500	400	400	400	300	300	300	300	200	200	200	200	100	100	100	100	100	100	100	100
500	400	400	400	300	300	300	300	200	200	200	200	200	100	100	100	100	100	100	100
500	500	400	400	400	300	300	300	200	200	200	200	200	200	100	100	100	100	100	100

第3回(平成28年度)小学生バスの絵コンテスト 鶴岡市長賞



「うも!山も!つるおがおいしいグルメ・エコバス」 鶴岡市朝陽第二小学校 2年 五十嵐 海愛 リーアム さん

◆ 田麦俣線 (月・火・水・木・金運行：祝祭日と年末年始(12/31~1/3)を除く)

○ 時刻表

※ 通過時刻は、交通事情により前後する場合があります。あらかじめご了承ください。

のぼり	1便			くんだり	1便			
	庄内交通	市営バス	市営バス		市営バス	市営バス	庄内交通	庄内交通
旧田麦俣分校口		9:00	13:15	中央高校				
田麦俣	6:55	9:01	13:16	S モール	7:30	11:45	17:00	19:00
田麦俣口	6:57	9:02	13:17	鶴岡駅	7:32	11:47	17:02	19:02
大綱局前	7:02	9:08	13:23	朝日庁舎前	8:07	12:22	-	-
大綱	7:02	9:08	13:23	沖田	-	-	17:31	19:31
米の粉の滝ドライブイン	7:06	9:11	13:26	朝日スポーツセンター	-	-	17:32	19:32
月山あさひ博物館	7:07	9:12	13:27	谷口	-	-	17:33	19:33
かみの	7:08	9:14	13:29	立岩	-	-	17:34	19:34
上名川	7:09	9:14	13:29	朝日庁舎前	8:30	12:40	-	-
柳屋	7:10	9:15	13:30	朝日中央コミセン	8:31	12:41	-	-
名川	7:11	9:16	13:31	朝日保育園前	8:32	12:42	-	-
下名川	7:12	9:16	13:31	朝日小前	8:33	12:43	-	-
新落合発電所	7:13	9:17	13:32	厚直あさひグー	8:33	12:43	17:34	19:34
厚直あさひグー	7:14	9:18	13:33	新落合発電所	8:34	12:44	17:35	19:35
朝日小前		9:18	13:33	下名川	8:35	12:45	17:36	19:36
朝日保育園前		9:19	13:34	名川	8:35	12:45	17:37	19:37
朝日中央コミセン		9:20	13:35	柳屋	8:36	12:46	17:38	19:38
朝日庁舎前		9:21	13:35	上名川	8:37	12:47	17:39	19:39
立岩	7:14			かみの	8:37	12:47	17:39	19:39
谷口	7:15			月山あさひ博物館	8:38	12:48	17:40	19:40
朝日スポーツセンター	7:16			米の粉の滝ドライブイン	8:39	12:49	17:42	19:42
沖田	7:17			大綱局前	8:42	12:52	17:46	19:46
朝日庁舎前		9:40	13:55	大綱局前	8:42	12:52	17:46	19:46
鶴岡駅	7:45	10:14	14:29	田麦俣口	8:49	12:59	17:52	19:52
S モール	7:47	10:16	14:31	田麦俣	8:50	13:00	17:56	19:56
中央高校	7:55			旧田麦俣分校口	8:51	13:01	-	-

○ 料金表 (単位：円)

旧分校口	田麦俣口	大綱	博物館	上名川	下名川	新落合	厚直	庁舎前
100	200							
200	200	100						
200	200	100	100					
300	200	100	100	100				
300	300	200	100	100	100			
300	300	200	100	100	100	100		
300	300	200	200	100	100	100	100	

第3回(平成28年度)小学生バスの絵コンテスト 庄内交通社長賞



「うみのいきものとなかよしバス」 鶴岡市朝陽第四小学校 1年 菅野 由奈 さん

【乗り換え案内】

朝日地域の市営バスは、大鳥線(落合⇄大鳥)、田麦俣線(落合⇄田麦俣)の区間を運行します。そのため、落合から鶴岡駅方面に往來するためには「朝日庁舎前」で庄内交通の路線バスに乗り換えする必要があります。

ただし、庄内交通の路線バスも、一部全区間運行します。大鳥線・田麦俣線ともに、早朝の上り1本と夕方の下り2本は従来どおり運行します。この路線バスは、乗り換える必要がありません。

ご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

乗り換えるイメージ



—平成29年—  
3月1日号

【広報】

つるおか

朝日版

Tsuruoka Public Relations

市営バスお試し運行



乗車希望者を募集します

3月27日  
~30日

平成29年4月からの朝日地域公共交通再編に伴い、庄内交通の路線バスが落合までの運行に一部短縮となります。そのため、平日日中の時間帯に落合から庄内交通バスと乗り継いで移動ができるよう、市営バスの運行を予定しています。

市営バスの運行に伴い、以下のとおり市営バスの「お試し運行」を行いますので、乗車希望者を募集します。お試し運行の市営バス料金は無料ですので、お気軽にお申し込みください。

(期日と運行予定)

3月27日(月)・28日(火) 大鳥線(落合⇄本郷⇄砂川⇄大針⇄大泉⇄大鳥)	3月29日(水)・30日(木) 田麦俣線(落合⇄名川⇄大網⇄田麦俣)
8:30 発 (落合) 朝日保育園前 ↓ 下り1便	8:50 発 (落合) 朝日庁舎 ↓ 下り1便
9:12 着 (大鳥) 松ヶ崎公民館	9:12 着 (田麦俣) 旧田麦俣分校口
9:18 発 ↓ 上り1便	9:18 発 ↓ 上り1便
10:00 着 (落合) 朝日保育園前	9:40 着 (落合) 朝日庁舎
10:30 発 ↓ 下り2便	10:10 発 ↓ 下り2便
11:12 着 (大鳥) 松ヶ崎公民館	10:32 着 (田麦俣) 旧田麦俣分校口
11:18 発 ↓ 上り2便	10:38 発 ↓ 上り2便
12:00 着 (落合) 朝日保育園前	11:00 着 (落合) 朝日庁舎

(バス停)

- 市営バスのバス停として新たに次の四カ所に設置します。また、市営バスの経路にある庄内交通バス停は、市営バス停とみなして停車します。

市営バス停(新設)	設置予定箇所
朝日中央コミセン	すまいる正面玄関前
朝日保育園前	落合公衆トイレ前
旧田麦俣分校口	旧田麦俣分校へ入るT字路付近
松ヶ崎公民館	松ヶ崎公民館前

市営バス車両(予定)



(申込み方法)

- 乗車希望の方は「乗車を希望する①期日、②便名、③乗降を希望するバス停」を確認の上、3月10日(金)まで、お電話にてお申し込みください(行き帰りとも乗車可能です)。
- 乗車定員は概ね8名と限りがあるため、乗車希望者には後日バス停の通過予定時間等をお知らせします。

(申込み先)

朝日庁舎総務企画課 ☎53-2111 (内線339)

出逢いと祈り、そしてミチとの遭遇

来てみっちゃ! 「交流の里おおあみ」

鶴岡市「小さな拠点」づくり推進事業

# 地域デザイン

平成 28 年 12 月

朝日東部地区自治振興会

大網地区「小さな拠点」づくり検討委員会

## 1. 地域デザインのテーマ

出逢いと祈り、そしてミチとの遭遇 来てみっちゃ！「交流の里おおあみ」

※ミチとは…六十里越街道の「道」、「未知」なるもの、魅力ある地の3つの意味を込めています。

## 2. 大網地区の将来像

地域住民のまとまりの良さは大網地区の強みです。毎年10月に開催している文化芸能祭りでは、大網学校同窓会を同時に開催し、東京支部からも参加者が訪れます。住民と一緒に楽しみ、故郷への熱い想いをもち続けています。

大網地区に誇りを持ち、いつまでも楽しく安心して住み続けられるよう、互いに助け合い、豊かな地域資源の活用や継承により、子どもから大人まで愛着と自信を持って生活できるよう、継続した地域づくりに取組みます。

そして、住民が自信に満ち、活気あふれる大網地区を実現していきます。

## 3. 計画の期間

平成28年度～平成32年度

## 4. 現状と課題

朝日地域の東部に位置する大網地区は、霊峰「月山」の懐に点在する5つの集落からなり、ブナの自然林や月山筍をはじめとする山菜やキノコなど、豊かな自然が残されています。また、湯殿山信仰の道として、大勢の信者や旅人が行きかった歴史の道「六十里越街道」が地区内を通過しており、沿道には注連寺や大日坊、多層民家など歴史文化資源が多く残っています。

一方で市の中心部から10km以上離れ、積雪が3mを超える豪雪地という立地条件から、過疎化・少子高齢化が急速に進み、保育園や小学校の統廃合、商店の撤退、バス路線の縮減など、生活サービスの低下が続いています。

これらの現状を大網地区の課題として捉え、買い物の場の設置、移動手段の確保、地域資源の活用、情報発信、住民の交流の場づくりを大きな柱として、関連する課題を組み合わせながら行動計画を作成し、実践・実現させていきます。



## **1** 日常生活の不便を解消する。

- 具体的目標 大網版集落コンビニを設置して、日用品を販売する。  
予約制住民タクシーを運行する。

## **2** 特産物の販路を開拓する。

- 具体的目標 組織内に販売部をつくり、軽トラ市や移動販売で山菜やキノコ、月山筍を販売する。部員5名以上。

## **3** 地域の絆を強くする。

- 具体的目標 旧大網小学校内に、地域住民が気軽に集える場をつくる。  
大網地区出身者との交流を継続する。地域サポーター50名以上。

## **4** 大網の魅力を体感できる態勢を整える。

- 具体的目標 観光ルートや体験メニューの開発に取り組む。  
SNS等を活用して大網の魅力を広く発信する。

## **5** 活動に参加しやすい体制をつくる。

- 具体的目標 地域運営の方法を見直し、住民負担の軽減を図る。  
持続可能な組織づくりと人財の確保・育成を図る。

## 「小さな拠点」づくり事業

「小さな拠点」づくり事業では、来年度以降に繋げるための試験的な取り組みとして、平成29年3月までの間、社会実験を設けています。すでに「移動支援」として、車や免許のない方の地域内送迎はお知らせしていますが、それ以外の社会実験を紹介します(^)/

### 【コミュニティだより大網出身者へ送付】

毎月1日に発行しているコミュニティだよりを同窓生や大網出身者にも届け、大網を身近に感じてもらい、1ターン・Uターン・孫ターン等、幅広い交流の可能性を広げていきたいと思っております♡



大網出身者の皆さんに  
喜んでもらえるといいの～

### 【小さな産直・トラック市】

大網の各家庭で作っている野菜はどれも絶品！山菜も豊富！今までは「いっぱい採れたからおすそ分け」していたものを少しだけ売ってみて小遣い稼ぎしてみませんか？

年明けの1月1日には注連寺を会場に、大網の特産品をらせてもらえることになりました！初めての取り組みで、手探りで準備が進んでいます。地域の皆さんもお越しください☆

### 【定期バス乗車体験】

「今後、運転免許を返納して、送ってくれる家族もいなかったら、どうやって出かけたらいのか…」 「まず試しにみんなで庄交の定期バスに乗って出かけてみようか！」という発想から始まった計画で、現在 企画中です…♪

毎月開催しているふれあいサロンの日程を利用して、1月上旬～中旬に実施予定です(^)/

### 【Facebook ページ「大網っ子」の開設】

観光パンフレットには載っていない、大網の人しか知らないような大網の良さを地域外に発信していきましょう☆★12/20の時点で95件のいいね！が集まりました。

ぜひチェックしてみてください☆



[www.facebook.com/oamikko](http://www.facebook.com/oamikko)

## スキーシーズン到来!!

さあ、今年もスキーシーズンがやってきました。

皆さんの大活躍を期待しております!!

- ☆ 山形県中学校スキー大会(兼全中予選)  
1月14日～15日 赤倉温泉スキー場
- ☆ 国体予選山形県スキー大会  
1月22日 蔵王温泉スキー場
- ☆ 山形県スキー技術選手権大会  
1月23日、24日 蔵王温泉スキー場
- ☆ 朝日学童スキー大会(小学5,6年生)
- ☆ 1月29日 湯殿山スキー場

### 今月のコミセン事業予定

4日(水)	朝日庁舎 新年祝賀会 午後1時～ 中央コミセン
19日(木)	長生会新年祝賀会 午後1時～ 東部コミセン
19日(木)	朝日コミセン設立1周年記念行事 午後5時～ 中央コミセン
26日(木)	ふれあいサロン東部 午前9時半～ 東部コミセン



### かたくりの子「四つの運動」育成推進大会

実践作文 特選 渡部琉花さん (小2)

推進標語 入選 門脇和平さん (小6)



門脇 <sup>かずひら</sup> 和平さん (上村・与治右エ門) 渡部 <sup>るか</sup> 琉花さん (中村・佐平)

去る12月4日、朝日かたくりの子「四つの運動」育成推進大会が開催され、渡部琉花さんが実践作文小学校低学年の部で特選、門脇和平さんが推進標語高学年の部で入選し表彰されました。特選作文発表では渡部琉花さんが「えがおは友だち」の題名で、大きな声で堂々と発表しておりました。